

リアホナ




**全世界を祝福した啓示、
12 ページ**

気高い父親の務めに神の特質を
かいまみる、22 ページ

無私の奉仕と苦しみ、26 ページ

「版を手に入れました」
とジョセフは叫んだ、32 ページ



「わたしたちは
気高い父親の姿を通して
天の御父の持つおられる
すばらしい特質を
かいまみることができます。」

ジェームズ・E・ファウスト管長

「義にかなった父親の影響」より、22 ページ

リアホナ2018年6月号

特集

22 義にかなった父親の影響力

メーガン・ウォーレン

人生で出会ってきた父親代わりの人々が、義にかなった父親になることの大切さを教えてくれました。

26 互いに重荷を負い合う

ジェフリー・R・ホランド長老

神のすべての子供たちに、キリストがされたように共感を示すことで、わたしたちは主の業に携わることができるのです。

32 聖徒たち——

末日における

イエス・キリスト教会の物語

第4章：目を覚ましていなさい

何年か待った後、ジョセフ・スミスはついに版を受け取ったのです——目を覚ましていなさいという警告とともに。

シリーズ

4 信仰の肖像——デルバ・ネティン

6 ミニスタリングの原則—— 聞き上手になる5つのヒント

40 末日聖徒の声

80 また会う日まで——安息日の聖所 M・ラッセル・バラード会長



1978年の啓示を記念して

12 多くの人に神権の祝福を もたらす

神権に関して1978年に与えられた啓示が、個人と家族、教会をどのように祝福したでしょうか。

16 わたしたちの時代のための啓示

1978年6月1日、神権に関する啓示が与えられたときどのように感じたかを、4人の使徒が振り返ります。

18 ありとあらゆる方法で祝福される

エドワード・デュベ長老

専任宣教師だったとき、かつて黒人に神権が与えられていなかったことについて初めて聞きました。

20 神権を心から尊ぶ

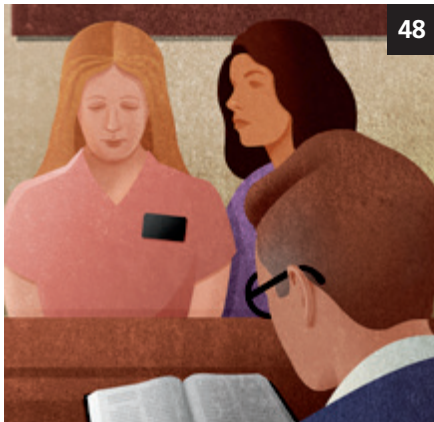
シャーロット・アクア

ガーナに最初の宣教師がやって来てからわずか3か月後、わたしはバプテスマを受けました。



表紙

写真/クリスティーナ・スミス



48

- 44 物事の兼ね合いをうまく取りながら堪え忍ぶ
 マイケル・ジョン・U・デー長老
 問題に向き合い「最後まで楽しむ」ために、わたしたちができる3つのこと
- 48 自分と神に正直になる
 フェイス・スザリン・ブラックハースト
 プライドを取り払いビショップの叱責を受け入れるのを、神が助けてくださいました。

- 50 備えよう —— 扶助協会は退屈でしょうか
 シャーロット・ラーカバル
 扶助協会は、思っていたものとは違いました。
- 52 備えよう —— 長老定員会に初めて出席した日
 ダリン・リュートキ
 喜んで貢献しようとするなら、長老定員会で自分が提供できるものはたくさんあるのです。
- 54 伝道地から —— 特別な助け
 アリー・アーネル
- 56 わたしたちのスペース
- 58 どのページもわたしたちがキリストを信じていることを示しています
 リチャード・M・ロムニー
 クラスメイトが、モルモンはクリスチャンではないと言いました。ですからわたしは、モルモン書の中で何が教えられているのかを見つけようと決心しました。
- 60 質疑応答
 もっと自信を持つにはどうすればよいでしょうか。識別の賜物とは何でしょうか。
- 62 自分の賜物を見いだす
 ジャスティナ・リヒナー
 賜物を見つけようとしていますか？始めるための9つの方法を紹介します！
- 64 ポスター —— 霊的な光
- 65 大切なメッセージ —— 光はいつもそこにあります
 ディーター・F・ウークトドルフ長老



76

- 66 光をかがやかせる —— 愛をしめす
 家族に奉仕することで、天のお父様の愛を感じることができます。
- 68 フェリックスのねる時間
 ハイジ・ポールマン
 アントンはコンピューターゲームにもどりたいと思っていました。でも、弟と一緒にいる方がもっと大切でした。
- 70 トルティーヤと友達
 リンゼー・スティーブンス・タナーとマリッサ・デニス
 アドリアーナは、近所のマルガリータと一緒におやつを食べてとても幸せでした。でも、友情のおかげでもっと幸せな気持ちになりました。
- 72 音楽 —— 奇跡
 シャーナ・ベルト・エドワーズ
- 74 キリストについてあかしする使徒
 デール・G・レンランド長老
- 75 天の御父はあなたをごぞんじです
 クリスティーナ・B・フランコ姉妹
- 76 聖文の物語 —— 神にしたがうモーセ
 キム・ウェブ・リード
- 79 色をぬりましょう —— わたしは平和を作る人になることができます

こんげつごう なか
 今月号の中に
 かく 隠れているリアホナを
 さが 捜しましょう。
 ヒント ——
 どうやってきょうだいに
 やさしく 優しくしますか？



52

リアホナ 2018年6月号

第20巻6号(14752300)

末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌(日本語版)

大管長会:ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, ヘンリー・B・アイリング

十二使徒定員会:M・ラッセル・バラード, ジェフリー・R・ホランド, デイター・F・ウークトドルフ, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン, ロナルド・A・ラスバンド, ゲーリー・E・スティーブンソン, デール・G・レンランド, ゲレット・W・ゴング, ウリセス・ソアレス

編集長:ヒューゴ・E・マルチネス

編集長補佐:ランドール・K・ベネット, キャロル・F・マッコンキー

顧問:フライアン・K・アシュトン, ボニー・H・コードン, リグランド・R・カーティス・ジュニア, エドワード・デュベ, シャロン・ユーバンク, ドナルド・L・ホールストロム, ダグラス・D・ホームズ, エリック・W・コピシュカ

実務運営ディレクター:リチャード・I・ヒートン

教会機関誌ディレクター:アラン・R・ロイボーク

ビジネスマネージャー:ガフ・キャン

編集主幹:アダム・C・オルソン

編集主幹補佐:ライアン・カー

出版補佐:フランシスカ・オルソン

執筆・編集:マリッサ・デニス, デビッド・ディクソン, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリット, ローリー・フラー, キャレット・H・ガフ, ラリー・ポーター・ガント, ジョン・ライアン, ジェンセン, シャーロット・ラーカバル, マイカル・R・モリス, エリック・B・マードック, サリー・ジョンソン, オデカーク, ジョシュア・J・パーキー, ジェン・ピンボロー, リチャード・M・ロムニー, ミンディー・セル, マリッサ・ウィティソン

編集インターン:サラ・C・キナン

実務運営アートディレクター:J・スコット・クヌーセン

アートディレクター:タッド・R・ピーターソン

デザイン:ジャネット・アンドリュース, フェイ・P・アンドラス, マンディー・ベントレー, C・キンボール・ボット, トーマス・チャイルド, デビッド・グリーン, コリン・ヒンクレイ, エリック・P・ジョンソン, スーザン・ロフグレン, スコット・M・ムーイ, エミリー・チエコ・レミントン, マーク・W・ロビンソン, ブラッド・テアー, K・ニコール・ウォーケンホースト

デザインインターン:ヤハイラ・ラモス

版權および許諾コーディネーター:コレット・ネベカー・オーヌ

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

制作:アイラ・グレン・アデア, ジュリー・パーデット, トーマス・G・クロニン, フライアン・W・キュギ, キニー・J・ニルソン, デレク・リチャードソン

製版:ジョシュア・デニス

印刷ディレクター:スティーブン・T・ルイス

配送ディレクター:トロイ・R・バーカー

日本語版翻訳課長:大森陽子

郵便宛先:Liahona, FL, 23, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0023, USA.

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30
電話:03-3440-2351
価格 (2018年1月より) 年間購読:国内 1,150円(送料込み) 海外 1,150円(+送料実費)
海外在住の方はお近くのデストリビューションセンターへのお申込みをお勧めします。
普通号/大会号 110円

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。アルバーニア語, アルメニア語, ビスラマ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブア語, 中国語, 中国語(簡体字), クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, キリジャ語, ハンガリー語, アイスタンド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリリス語, 韓国語, ラトビア語, リトニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ルルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, スペイン語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語(発行頻度は言語により異なります)。

©2018 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷:韓国
著作権情報:制限の記載がない限り、「リアホナ」に掲載されているものは、個人的に、また非営利目的(教会の召しも含む)で使用する場合に複製することができます。この指示内容は変更の可能性が常にあります。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Fl. 13, Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:
June 2018 Vol. 42 No. 6. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at store.lds.org. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)
POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 507.1.5.2).
NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.

インターネットで得られる追加情報



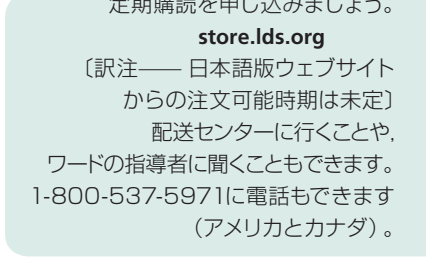
以下で記事を読みましょう。
記事を投稿することもできます。
liahona.lds.org



心を鼓舞し、
共有できるメッセージを
以下で見つけましょう。
(英語, ポルトガル語, スペイン語)
facebook.com/liahona



ご意見・ご提案は以下までお寄せ
ください。
liahona@ldschurch.org



定期購読を申し込みましょう。
store.lds.org
〔訳注——日本語版ウェブサイト
からの注文可能時期は未定〕
配送センターに行くことや、
ワードの指導者に聞くこともできます。
1-800-537-5971に電話もできます
(アメリカとカナダ)。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

- | | | |
|--------------------------|----------------------|---------------------------|
| 安息日, 80 | ジョセフ・スミス, 32 | プライド, 48 |
| イエス・キリスト, 26, 58, 72, 74 | 神権, 12, 16, 18, 20 | 奉仕, 6, 10, 26, 56, 66, 70 |
| 祈り, 16, 43, 44 | 信仰, 4, 18, 44 | モルモン書, 32, 56, 58 |
| 改心, 75 | 聖餐, 80 | 友情, 70 |
| 回復, 32 | 聖文, 58 | 優先順位, 44 |
| 家族, 4, 20, 44, 66, 68 | 聖霊, 16, 48 | 預言者, 56, 76 |
| 教会歴史, 12, 32 | 世話をする, 26 | 霊的な賜物, 60, 62 |
| 才能, 62 | 総大会, 56 | 霊的な光, 64, 66 |
| 識別, 60 | 父親の務め, 22 | |
| 自信, 60 | 長老定員会, 52 | |
| 従順, 32, 76 | 伝道の業, 41, 42, 54, 75 | |
| 正直, 48 | 天の御父, 40, 43, 75 | |
| | 扶助協会, 50 | |





信仰の肖像

デルバは二人目を妊娠して4か月に入ったころ、赤ちゃんに13トリソミーというまれな染色体異常があると告げられました。赤ちゃんが生存できる見込みはきわめて低く、デルバの命も危うくなる恐れがあったため、医師たちは何度も彼女に中絶を勧めました。先が見えない中で、デルバは何が起きようとも天の御父を信頼することを選びました。

クリスティーナ・スミス、写真家

デルバ・ネテイン

アメリカ合衆国、カリフォルニア州

妊娠8か月半が過ぎたころ、4D超音波検査を受けました。

以前の超音波検査では、身体的特徴まではどの医者も確認できませんでした。そのため、娘の手に指はなく、顔も奇形だろうと言われました。4D超音波検査の画像はより鮮明です。ですから技術者が超音波検査を始めると、完全な形の手をわたしに振ってくれているのが見えたのです。ちゃんとした二つの目ときれいな口も見えました。そのとき、娘は死なないという思いが胸にあふれてきました。

娘のメラが生まれたとき、専門家が何人も待機していましたが、結局必要ありませんでした。メラは13トリソミーではありませんでした。医者も専門家もなぜそんなことが起こったのか説明できませんでしたが、夫とわたしには奇跡であることが分かっていました。

ミニスタリングの原則

聞き上手になる 5つの ヒント

心から耳を傾けるなら、救い主のように人々の霊的・物質的必要を満たす方法が分かるようになります。

十 二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老はこう言っています。「恐らく、話すよりもはるかに大切なのは聴くことでしょう。……愛をもって耳を傾けるなら、何を言うべきか悩む必要はありません。語るべき言葉を御霊が教えてくれることでしょう。」¹

耳を傾けることは、学んで身につけられるスキルです。耳を傾けることで、わたしたちは人々に愛を示し、堅固な関係を築き、御霊を招きます。御霊はわたしたちを祝福し、人々の必要を理解する助けとなる識別の賜物を与えてくださいます。² 聞き上手になるための5つの方法を挙げましょう。

共通点を見つける

相手の意見にすべて賛成できないかもしれませんが、自分の気持ちを偽らずに賛成できる点があれば、それを伝えましょう。協調性を示すことで、相手の不安や自己防衛的姿勢を和らげることができます（マタイ5：25 参照）。

要約して返す

相手の話と気持ちをどのように理解したか、要約して話してみましょう。そうすることで、相手は自分の発言を理解してもらえたかどうかを知ることができ、さらに詳しく説明する機会にもなります。

間を置く

多くの人は、話す前に考えをまとめる時間を必要とします。ですから、相手が話す前と話した後に、考える時間を与えましょう（ヤコブの手紙1:19参照）。話し終わったからといって、必ずしも言う必要のあることをすべて言い終えたとは限らないからです。沈黙を恐れなください（ヨブ2:11-3:1；アルマ18:14-16参照）。

注意を払う

わたしたちは、人が話すよりも速く考えるものです。話を最後まで聞かずに決めつけたり、相手が話し終えたら何を言おうかと先回りして考えたりしたくなる気持ちを抑えましょう（箴言18:13参照）。そうではなく、理解しようと耳を傾けましょう。そうすれば、理解と知識が深まる分、あなたの応答もより良いものになるはずです。

明確にする

理解できなかったことがあれば恐れずに質問し、明確にしてください（マルコ9:32参照）。明確にすることで誤解が減り、あなたが話に関心を持っていることが伝わります。

ラッセル・M・ネルソン大管長は、「耳を傾けるすべを身につけ、実際に耳を傾けて、互いに学び合[う]」べきであると教えています。³ 相手のことを知ろうと思って耳を傾けるとき、皆さんはその人々の必要をよりよく理解し、救い主のように周りの人々を助ける方法について、御霊の促しを感じることができるようになります。

耳を傾けることは愛すること

次のホランド長老の物語から、耳を傾けることの持つ力がよく分かります。

「友人のトロイ・ラッセルが、……ガレージからゆっくりとトラックを出しました。後ろのタイヤが何かをひいたのを感じました。……トラックから降りて確認すると、最愛の息子である9歳のオースティンが道路にうつ伏せに倒れているのを見つけました。……オースティンは帰らぬ人となりました。

睡眠も平安も得られないトロイを、慰めるすべはありませんでした。……しかし、苦悩の淵にいる彼に……与えられたのがジョン・マニングでした。

ジョンと同僚がどんなスケジュールでラッセルの家を訪問していたのか……分かりません。……ただ分かっているのは、今年の春、マニング兄弟がトロイ・ラッセルに手を差し伸べ、悲劇の淵から引き上げたこと

です。まるでトロイがかつて幼い息子オースティンを抱き上げたように。……福音における兄弟が当然なすべきこととして、ジョンはただ、トロイ・ラッセルに神権による養いを見守りを与えました。ジョンは最初こう言いました。『トロイ、オースティンは君に自分の足で立ってほしいと思ってるはずだ。バスケットコートにもね。だから、毎朝5時15分に迎えに来るよ。準備して待っていてくれないか。』

『行きたくはありませんでした。』トロイは後にこう語っています。『朝の練習にはいつもオースティンを連れて行っていた……からです。でも、ジョンがどうしてもと言うので、行ってみたんです。復帰した最初の日から、わたしたちは話しました。というより、わたしが話し、ジョンは聞いてくれました。……最初はつらかったです。でも、[ジョン・マニング]が、再びわたしの人生に太陽が昇るまで、わたしを愛し話を聞いてくれたおかげで、徐々に力を取り戻せたのです。』⁴ ■

注

1. ジェフリー・R・ホランド「わたしの証人」『リアホナ』2001年7月号、16 参照
2. See David A. Bednar, in "Panel Discussion" (worldwide leadership training meeting, Nov. 2010), broadcasts.lds.org
3. ラッセル・M・ネルソン「耳を傾けて学ぶ」『リアホナ』1991年7月号、23
4. ジェフリー・R・ホランド「教会の使者」『リアホナ』2016年11月号、62、67 参照

ミニスタリング —— 救い主のように行う

イエスがエリコを出て行ったとき、二人の目の不自由な人が主に叫んで言いました。

「主よ、……わたしたちをあわれんで下さい」……

イエスは立ちどまり、彼ら呼んで言われた、「わたしに何をしてほしいのか。」

彼らは言った、「主よ、目をあけていただくことです。」

イエスは深くあわれんで、彼らの目にさわられた。すると彼らは、たちまち見えるようになり、イエスに従って行った。(マタイ 20 : 30, 32 – 34)

救い主が耳を傾けられた様子から、何を学ぶことができるでしょうか





行動を促す

これらの原則を自分のミニスタリングに応用する方法を考えてみましょう。ミニスタリングの対象となる人々に、どのような必要があるかを尋ねてください。相手の答え

と聖霊の促しに耳を傾け、感じたことに従って行動しましょう。



ミニスタリングの原則は、互いを思いやる方法を学ぶためのものであって、メッセージとして伝えるものではありません。割り当てを受けた相手をよく知るようになると、聖霊の促しによって、彼らを心にかけて、思いやっていることを伝える方法が分かるだけでなく、彼らが必要としているメッセージも分かるようになります。

わたしたちが必要とされた場所で

ウィルフリード・エイ、ローラ・エイ

ブルックリンへ引っ越すようにという促しに従ったおかげで、わたしたちは想像もしなかったような奉仕と祝福の機会に恵まれました。

20 13年当時、わたしたちはアメリカ合衆国ニューヨーク州のマンハッタンに住んでいました。所属するワードも気に入っていました。もうじき初めての子供が生まれるということもあって、わたしたちは同じワードの区域内でもう少し広いアパートを探し始めました。申し分のないアパートが見つかりましたが、何かしっくりきません。

その年の春、ローラはブルックリンへ引っ越すのがいいのではないかと感じ始めていました。ウィルはまだ確信が持てずにいます。わたしたちはブルックリンについては何も知りませんでしたし、ウィルは、自分の職場である投資銀行の近くの方がいいと考えていました。長時間にわたる勤務のことを考えたら、通勤時間が短い方がよかったです。わたしたちはそれについて祈ることにし、総大会のときに答えを求めて聞こうということになりました。

わたしたちのワンルームのアパートで、ノートパソコンで大会の説教を視聴していると、七十人のスタンレー・G・エリス長老が、ステーキ会長会の一員であったときの経験について話していました。長老が言うには、アメリカ合衆国テキサス州にあった彼のステーキに引っ越して来る家族から、ど

こがいちばん良いワードですか、という質問をよく受けたと言うのです。しかし、どこのワードへ行ったら力になりますか、と尋ねた家族は、16年間で1度だけだったのです。¹

わたしたちはこの話に心を動かされました。わたしたちの祈りの答えでもありました。わたしたちのお気に入りのワードは、居心地もよく、託児や初等協会も申し分ありませんでした。でも、そのワードにそのままとどまるのではなく、エリス長老のアドバイスを心から受け入れることにして、どこへ引っ越したらよいか、祈りました。

その当時、わたしたちはニューヨーク州マンハッタン神殿の儀式執行者として奉仕していました。仲間の執行者の一人にニューヨークのことをよく知っている人がいました。彼は、わたしたちが力になれそうだと考える二つのワードの名前を挙げてくれました。両方ともブルックリン内です。

最初に紹介されたワードは、ウィルの職場から遠すぎました。2番目のワードはもう少し近くにあり、聖餐会を訪問してみたとき、わたしたちは、間違いなくこのワードだと実感したので。そのワードの教会員の多くは、ハイチからの移住者でした。ウィルはガボンの出身でフランス語も話せますから、このワードはわたしたちにとって

大きな実家のような存在になるとわたしたちは考えたのです。

すばらしい経験

数週間後、わたしたちはアパートを見つけ、引っ越しました。ウィルは間もなく、様々な意味深い役割を果たす奉仕の責任に召されました。ハイチ語を理解するには多少の時間がかかりましたが、ウィルは祝福されて、すぐに堪能になり、集会や面接で会員たちのために通訳として助け始めました。ローラもまた恵まれて様々な役職で奉仕をしました。わたしたちは伝道活動にも携わるようになりました。

そのような活動を通じてできた友人の一人に、ノーミル・ロメラスという名前の若い求道者がいました。彼は教育を受けるためにハイチからやって来た青年でした。彼は宣教師とよく我が家を訪問し、わたしたちは、フランス語やハイチ語でよく福音を学ぶ手伝いをしたものでした。ノーミルがバプテスマを受けた後、わたしたちは彼が教会の教育プログラムに参加できるよう、経済的な支援をしました。そして、彼はそのプログラムを通じて将来の伴侶に出会ったのです。ウィルは、マンハッタン神殿で行われた彼らの結婚式に出席して、感謝の思いに満たされていました。

わたしたちはまた、がんの治療のためにハイチからニューヨークへやって来たある信仰深い姉妹とも出会いました。彼女の滞在中、ワードの評議会はできるかぎりのことをして、彼女が必要とすることを支援しました。治療を受けるための送り迎えもその一つでした。この期間中、わたしたちも恵ま

れて、彼女のために仕え、慰問する機会がありました。わたしたちは彼女が少しでもよくなるよう願ったのですが、彼女は亡くなってしまいました。

この二つの経験は、ワードが人々のために何をしたかを表しています。そうです、人々を助け、人々を高めたのです。わたしたちはこの二つの経験や、そのほかのすばらしい経験にも感謝しています。

ほんとうに大切なこと

主とその子供たちに仕えるとき、自分のことは主にお任せすればよいということを学びました。ブルックリンでの経験のおかげで、わたしたちはあるべき姿を学ぶことができたのです。それは特にウィルにとって、ウォール街の喧騒けんそうから離れ、いちばん大切なものは何かを常に心に留める良い機会になりました。投資銀行の業務では、日曜日に働かない人はほぼ皆無です。ウィルは時々遅れた仕事を挽回するために、家に仕事を持ち帰らなければならないことがありましたが、主はわたしたちを祝福してくださって、ウィルが日曜日に職場へ出かけないといけなようなことは一度もありませんでした。

わたしたちがブルックリンへ引っ越したとき、ワードで幼い子供のいる家族は、わたしたちを含めて二家族しかないと考えていました。ところが、引っ越した2週間後にワードの境界線が変更になり、子供たちのいる家族がほかにも転入して来ました。

わたしたちは今、ガボンへ移住しようと考えています。わたしたちは、ブルックリンでの経験を通じて、教会やアフリカの人々にもっとよく仕えるため



の備えができた実感しています。わたしたちは、引っ越すようにという促しに従ったことに感謝しています。主はわたしたちを祝福してくださいまし、今なお、わたしたちが想像もしなかったような方法で、祝福を注ぎ続けてくださっているのです。■

筆者であるこの夫婦は現在アメリカ合衆国マサチューセッツ州在住です。

注
1. スタンレー・G・エリス「主の方法」「リアホナ」
2013年5月号、36-38参照

多くの人に 神権の祝福をもたらす

神は御自分のすべての子供たちを愛し、一人一人が御父のもとに帰る方法を備えてくださいました。

編集者注——どこで聞いたかだれもが覚えているほどの大事件はめったにあるものではありません。神権に関する1978年の啓示は、そのような衝撃をすべての世代の聖徒に与えました。この啓示に至った歴史や、それが神の家族に及ぼした深い影響について、限られた誌面で十分に述べることはできませんが、この啓示の40周年を記念して、『リアホナ』は以下の簡単な紹介に続き、短い個人的な話を幾つか掲載します。詳しくは、21ページにある追加資料を参照してください。

モルモン書は「黒人も白人も、束縛された者も自由な者も、男も女も」含めて、「すべての人が神にとって等しい存在」だと教えています(2ニーファイ26:33)。神はわたしたちすべてを愛しておられるので、ある方法を備え、皆が神のもとに帰れるようにしてくださいました(モーセ5:9; 信仰簡条1:3)。教会歴史を通して、あらゆる人種、民族の人々がその目的のためにバプテスマを受け、忠実な末日聖徒として生活してきたのです。

1800年代半ばから、教会はアフリカ系の黒人を祖先に持つ男性に神権の聖任を行わず、黒人男女が神殿のエンダウメントや結び固めの儀式に参加することを許可

1978年10月の総大会で、
会員が全会一致で『公式の宣言二』を
支持したとき壇上に立つ大管長会。
神権に関する啓示は家族に祝福を
もたらし、神殿の祝福への扉を開いた。
右ページ：アフリカで建設が発表された
神殿または建設中の神殿、
儀式が執行されている神殿は8ある。
その中の一つ、
ガーナアクラ神殿の敷地を歩く家族。



1978年当時の総大会の写真。教会歴史図書館の所蔵により掲載



しませんでした。¹ わたしたちの知るかぎり、この慣習の起源を説明する記録はありません。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、こうした制限を説明するために考え出された理論はいずれも決して根づいてはならない「民間伝承」であることを強調しています。「たとえよかれと思ってなされた説明であっても、こうした理論は、ほとんどが不適切であるか間違っています。……どうしてこのような慣習が……できたのかまったく分かりません。」²

ブリガム・ヤングをはじめ多くの預言者と大管長が、将来いつかすべてのふさわしい男性に神権が授けられるようになることと約束しました。このような約束を知り、黒人の末日聖徒の忠実さを目にして、教会の指導者は、20世紀の中ごろ、「長い間、熱心に主に懇願しました。……神聖な導きを主に嘆願し〔ました〕。』³

神からの啓示

その導きは、聖なる神殿の神聖な部屋で「長い間めいそう冥想し祈った後に」スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)に与えられました。1978年6月1日、主は御自分の預言者と大管長会および十二使徒定員会に次のように明らかにされたのです。「預言されて久しい約束の日が訪れ〔ました。〕……教会の忠実なふさわしい男性が皆、聖なる神権をその神の権能を行使する力とともに受けることができ、またそれからもたらされる、神殿の祝福を含むあらゆる祝福を愛する人々とともに享受することのできる日が訪れたのです。」⁴

この啓示を発表するときに、大管長会

フランスのパリで行われている
定員会集会で教える若い男性。
この国は、ほとんどのワードに世界中の
多種多様な国から来た会員がいる。

はこう述べました。「全地の主の子らすべてに祝福をもたらすために、主は今やその御心を知らせてくださいました。このことを、わたしたちは厳粛に宣言します。」⁵

次の総大会で、大管長会は教会員にこの啓示を提議し、教会員はそれを「主の御言葉および御心」として受け入れ、『公式の宣言二』を聖典の一部として全会一致で支持しました。

啓示の結果


この啓示は深い影響を及ぼしました。神は、人種に関係なくすべてのふさわしい会員が神権と神殿の祝福を受けられるようにされただけでなく、この地上に生を受けたすべての人のために神殿の儀式を執行できるようになりました。

この啓示に伴って伝道活動を拡大する機会が生まれ、多くの国民、部族、国語の民、民族の間で会員数が増えました。

教会の教え

主の業が全世界で広がり続け、教会員はさらなる一致の時代を享受しています。教会員が様々な国や文化を背景に持つ人々と交流する機会が増えるにつれて、教会指導者は互いに愛し、強め合うこと、またあらゆる種類の偏見や人種差別をなくすことの大切さを強調しています。





「わたしたちは思いやりをもって神の子供たちを受け入れ、人種差別や性差別、国家主義を含む偏見を、それがどんなものであっても取り除く必要があります。」十二使徒定員会会長代理であるM・ラッセル・バラード長老はこう教えています。「イエスキリストの回復された福音の祝福は神のすべての子供たちのものであることを、心から信じていると言えるようにしましょう。」⁶ 神の永遠の家族に言及して、ラッセル・M・ネルソン大管長は次のように教えました。「神がまことにわたしたちの御父であられることを理解して初めて、人は皆兄弟であることを完全に理解することができます。そうすれば、『差別の壁』ではなく『協力の橋』を築きたいと願うようになります。」⁷

ともに前進する

だれもすべてを知ることはいませんが、だれでも知ることができることは幾つかあります。神がわたしたちを愛しておられ、わたしたちが一つにまとまった永遠の家族となるための計画を立てておられることを知ることはできます。この教会が回復された主の教会であり、主が預言者を通じてこの教会を導いておられることを知ることはできます。これらの真理について個人的な証を持つことは、主に似た者となる過程で直面する様々な機会と試練を通じて、ともに前進するうえで助けとなります(モロナイ7:48 参照)。■

注

1. 福音のテーマ「人種と神権」の項、topics.lds.org 参照
2. In “The Mormons” (interview with Jeffrey R. Holland, Mar. 4, 2006), pbs.org/mormons/interviews; see also Dallin H. Oaks, in “Apostles Talk about Reasons for Lifting Ban,” *Daily Herald*, June 5, 1988, 21

3. 公式の宣言二
4. 公式の宣言二
5. 公式の宣言二
6. M・ラッセル・バラード「旅は続きます」『リアホナ』2017年11月号, 106
7. ラッセル・M・ネルソン「救しと愛とを持たしめたまえ」『聖徒の道』1994年7月号, 75

わたしたちの時代のための啓示

1978年の啓示に関する預言者と使徒の回想録

編集者から—— 神が、人種に関係なくすべてのふさわしい会員に神権の祝福が与えられる時期が来たことを大管長会と十二使徒定員会に明らかにされたとき、その場にいた最後の生ける使徒がトーマス・S・モンソン大管長でした。その日、その場にいた4人の使徒が述べた言葉を紹介します。

求める



スペンサー・W・キンボール大管長
(1895 - 1985年)
教会の第12代大管長

「来る日も来る日も、わたしは厳粛な気持ちと真剣な思いをもって独りで神殿の上の部屋に行き、自分の心をささげ、計画を前進させるために努力することを申し出ました。わたしは主が望んでおられることを行いたいと思っていました。……

わたしたちは栄光に満ちた経験をしました。どこに住んでいるかにかかわらず、すべてのふさわしい男性と女性とともに神の国を受け継ぐ者となり、福音のあらゆる祝福にあずかる者となる時が来たことを、主がはっきりと示してくださったのです。救い主の特別な証人として、わたしは皆さんに次のことを知っていただきたいと思います。わたしは神殿の上階にある部屋を幾度も訪れたとき、独りで一日に何度も行くこともありましたが、主と天の御父をとて身近に感じてきました。主は何をなすべきかを非常に明確にしてくださいました。」

『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』238 - 239 参照

祈り



トーマス・S・モンソン大管長
(1927 - 2018年)
教会の第16代大管長

「大管長会と十二使徒定員会の会合の終わりに当たり、わたしたちは〔神殿内の〕聖壇で特別な祈りをささげました。キンボール大管長が祈りをささげ、きわめて広範囲に影響を及ぼすこの件について、光と知識を注いでくださるよう主に懇願しました。大管長がその気高い召しにおいて謙遜に導きを請い求める声は、使徒たちに大きな慰めを与えました。……

大管長会は後に、『その会合の間とどまっていた平安と一致の御霊は、……かつてないほど強いものであり、主がわたしたちの話し合いを喜んでおられたことを示す証拠〔であった〕』と感謝の意を表しました。……

まさに歓喜の瞬間でした。わたしたちは、この時代のための主の啓示を主の預言者が宣言するのを聞いたからです。」

In Heidi S. Swinton, *To the Rescue: The Biography of Thomas S. Monson* (2010), 393.



ブラジルのマナウスで聖餐を配る執事たち。
1978年に与えられた啓示により、
あらゆる人種のふさわしい神権者は
神権の儀式を執行することが
できるようになりました。

啓 示



ブルース・R・マッコンキー長老
(1915 - 1985 年)
十二使徒定員会

「主はその摂理によって大管長会と
十二使徒のうえに聖霊を注がれました。
……啓示は教会の大管長に与えられまし

たが、その場にいた一人一人にも与えられました。その場には10人の十二使徒と大管長会の3人が集っていました。その結果、キンボール大管長も、わたしたち一人一人も、ほかの人を通じてではなく、各自への直接的かつ個人的な啓示によって知りました。すなわち、神権と主の宮の祝福を含めた、福音とそのすべての祝福と義務が、黒人を含め、あらゆる国家、文化、人種の人々に与えられる時が来たことを知ったのです。何が起こったか、あるいは与えられた言葉とメッセージが何であったかは、一点の曇りもなく明白でした。」

“All Are Alike unto God” (Brigham Young University devotional, Aug. 18, 1978), 4, speeches.byu.edu.

確 信



ゴードン・B・ヒンクレー大管長
(1910 - 2008 年)
教会の第15代大管長

「その部屋には厳かで神聖な雰囲気
が漂っていました。わたしは、天の玉座と
中央幹部とともにひざまずいて嘆願する神の
預言者との間に、1本の道が開かれているように感じまし
た。神の御霊がその場にありました。聖霊の力により、預
言者は祈っていたことが正しいという確認を受けました。
また、血統にかかわらずあらゆる地のふさわしい男性に驚
くべき神権の祝福が与えられる時が来たことを確信しまし
た。

輪の中にいた全員が聖霊の力によって同じことを知りま
した。……

……その出来事を境として、その場にいたわたしたちは
変わりました。教会も同じように変わりました。」

“Priesthood Restoration,” *Ensign*, Oct. 1988, 70.

キンボール大管長とヒンクレー大管長がこの啓示にまつわる経験を
語る声を聞くには、lds.org/go/061816 へアクセスしてください。



七十人
エドワード・
デュベ長老

ありとあらゆる方法で 祝福される

この啓示によって、わたしと家族、アフリカの教会は、非常に大きな祝福を受けました。

編集者注：神権を持つことのできる人に関する制限が1978年の啓示によって解除された後も、そもそもなぜ神がその制限を設けられたのか知りたいと思っている会員がたくさんいます。この疑問に関連した経験を、デュベ長老が語ります。

黒人に神権が与えられていなかったことについてわたしが初めて聞いたのは、伝道中のことでした。わた

しがバプテスマを受けたのは1984年で、この制限はすでに撤廃されていました。2年後にわたしは、南アフリカ・ヨハネスブルグ伝道部に伝道に召されました。

ジンバブエのブラワヨで伝道していたときに、フランシス・ジャック長老とわたしはあまり教会に来ていない姉妹を訪問しました。ご主人は別の教会の神学教授で、黒人のアフリカ人男性に神権が与えられていなかったのはなぜかと質問してきました。そして、わたしが不快になることをたくさん言ってきたのです。聞いたことのないことばかりでした。その部屋から出てきたとき、わたしは心が沈み、非常に落胆していました。

ジャック長老と一言も話さずにアパートに帰りました。アパートに着くと、ジャック長老はわたしを見て言いました。「デュベ長老、どうしたの。ひどく取り乱しているみたいだけど。」



「あのご主人の言ったことを聞いたかい。」わたしは答えました。「あんなことがあり得るのだろうか。」

「デュベ長老、長老は天の御父とイエス・キリストが少年ジョセフに御姿を現されたことを信じているかな。」

「信じているさ」と、わたしは言いました。「でも、それと何の関係があると言うんだ。」

「大いに関係があるよ」とジャック長老は言います。「わたしたちは啓示があることを信じているよね。」

わたしはジャック長老の言葉と、あの教授が言ったことをかみ締めていました。その晩、わたしは真夜中に目が覚めて、幸せと平安を感じました。

福音に関するあらゆる疑問の答えが、1820年に起こった出来事に結びついたのです。天の御父とイエス・キリストがジョセフ・スミスに御姿を現されたのですから、ジョセフ・スミスは預言者であり、この教会は主の教会です。天の御父とイエス・キリストが少年ジョセフに御姿を現されたのであれば、福音のすべての原則と疑問は然るべきところに落ち着くのです。この教会は啓示の教会であり、主はある時期にある方法を、主の僕たち、預言者たちに啓示されます。この事実がわたしに平安を与えてくれたのです。

わたしはいても立ってもいられなくなり、こう叫んで同僚を起こしました。「そうだ、そうだ。ジャック長老、君の言うとおりで。天の御父とイエス・キリストは少年ジョセフに御姿を現されたんだ！これは主の教会だ！」

この制限の撤廃は、アフリカ全土の会員にとって祝福でした。神権は、ありとあらゆる方法でわたしと家族を祝福

してきました。神殿の祝福と、永遠にわたって家族と一緒にいられることを知るという祝福があることは、わたしにとって非常に大きな力になりました。

神権が使えることは、アフリカにとって祝福となっています。アフリカの人々は元来幸せで前向きですが、福音はそれに拍車をかけました。アフリカでは、家族は非常に大切ですから、神殿は大きな祝福と見られています。教会はこの地で急速に発展しています。

この地の会員は、神の御心に耳を傾けます。そして、行ってそれを行います。そのおかげで会員たちは祝福されてきました。アフリカのある地域で失業率が90パーセントになっているときでも、会員たちは幸せに暮らしているようです。自立しているからです。神権と神権指導者からの指示が、わたしたちを祝福してきました。

神権を持つ機会、わたしの人生にそれがあるという祝福、そしてアフリカ全土の会員にそれが大きな祝福をもたらしていることについて、わたしは天の御父とイエス・キリストに感謝しています。■

エドワード・デュベ長老は、ジンバブエで生まれ、ナウメ夫人との間に4人の子供がいます。

イギリス・プレストンの神殿に参入する青少年。
1978年の啓示以来、
地上に生まれてきたすべての人が、
神殿の儀式を受けられるようになりました。



神権を 心から尊ぶ

シャーロット・アクア

1978年の啓示はわたしと家族をどのように祝福したか。

編集者注——この啓示の及ぼした影響は、あらゆる人種のふさわしい男性が神権に聖任されるようになったことだけにとどまりませんでした。神殿の儀式と聖約という特権と義務をはじめ、神権のあらゆる祝福を、あらゆる人が受けられるようになったのです。ガーナの教会の初期から教会員であるシャルロット・アクアが、アフリカで教会が正式に設立されるのを目の当たりにすること、家庭に神権者がいること、神殿で家族として結び固められることなど、この啓示が家族全員にもたらした祝福について語ります。



教 会について初めて耳にしたのは、1968年に母がジョセフ・W・B・ジョンソン兄弟のグループに加わったときのことです。¹ わたしは10歳ぐらいでした。1966年のクーデターのせいで父の会社は傾き、家族で苦しい生活を送っていました。それで母は霊的な助けを求めた方がよいと思ったのです。

1978年の啓示が下る前の教会は非公式なものでした。神権がまだ黒人に与えられていなかったからです。啓示が与えられた後は、神権の権能によって教会を確立することができるようになりました。わたしは1979年2月24日にバプテスマを受けました。²

夫は、少し納得できない点もあり、教会員となるために2年間の学習を要しました。1980年にやっとバプテスマを受けて、神権を受けられました。夫はととても穏やかになりました。家族ですらその変わりようが信じられないほどでした。授かった神権に対して慎重で、いつも主の前に正

しいことをしようと心がけていました。神権がなければ、人の誉れを求めただろうと夫は言っています。しかし神権のおかげで、最も大切なものは夫婦であり、家庭であり、家族であり、人に仕えることだということが分かったのです。

わたしたちの住む社会では、父親の言葉は絶対です。しかし、わたしたちは神権をそのような形では使いません。家族評議会です話合います。父親は自分の教えていることは正しいということを妻や子供が理解できるように助けます。

教会員の家庭では、妻が夫に仕えるのではなく、夫が妻に仕えます。そうすることで、愛し合い、穏やかに暮らすようになります。

夫が聖餐を祝福するのをわたしが初めて見たのは「冬の時代」のことでした。聖餐会を自宅で開いたからです。³ そのとき、夫が神権を持っていることはほんとうにすばらしいことだと感じました。聖餐を祝福するために、だれかが我が家に来る必要はありません。夫が祝福できたからです。それは特別で、すばらしいことでした。



黒人が神権を持ってないことを伝える文書を初めて読んだのは冬の時代のことです。そのころから、反モルモンの文書が世間に出回り始めていました。わたしはあまり気にしませんでした。教会が真実であることを知っていたからです。わたしたちは人に頼るのではなく、イエス・キリストとその贖いの犠牲を中心に据えた生活を送るよう教えられています。それこそがわたしの信仰の中心なのです。

1996年12月17日、南アフリカヨハネスブルグ神殿に参入することができました。胸の高鳴りを覚えました。特に、生まれてわずか数日で亡くなった最初の子が自分たちに結び固められるという言葉聞いたときは、特にそうでした。子供に罪がないことは分かっていたのですが、死んでもう会えなくなったと思っていました。その子がわたしたちに結び固められたのです。忘れることのできない霊的な経験でした。

そのようなわけで、子供は何人いるかと聞かれたら、8人と答えることにしています。「どういうこと？」と聞かれたら、こう答えるのです。「8人なんです。長男はわたしたちを待っています。御父のみもとに戻って長男と一緒に家族として暮らせるように、神の戒めに従って生活しなければなりません。わたしたちに懸かっています。」

神権は神の力です。わたしは神権から実に多くの祝福を受けてきました。子供が父親に神権の祝福を求めるとき、わたしはいつも大きな喜びを感じ元気が出ます。それに子供が父親を信頼していて、天の御父が神権を持つ父親を通じて働かれることを信じていることが分かるのです。わたしたちは家庭で神権を心から尊んでいます。今では息子3人は結婚し、それぞれの家庭で神権を使っています。

神権は真実であることを知っています。神の力だからです。神権は生ける力です。天の御父が生きておられるからです。御父はその力の一部をこの地上に住む男性にお与えになりました。わたしたち女性は神権の

恩恵に浴しています。わたしは神権を心から尊んでいます。神権はこれまで家族を助けてくれましたし、これからも助けてくれるのです。■

筆者はガーナ、セントラル州在住です。

注

1. 1960年代半ばのガーナで、ジョセフ・ウィリアム・ビリー・ジョンソンはモルモン書、教義と聖約、高価な真珠を受け取り、非公式であっても教会の集会を立ち上げなければならぬと感じた。
2. 1978年11月、初めて宣教師がガーナに公式に派遣された。
3. 1989年6月14日、ガーナ政府は宣教師を追放し、教会活動を禁じたが、会員が自宅で礼拝を行うことは許可した。18か月後、教会が政府の法律を守るよう会員に教えていること、また人種間の調和を奨励していることに政府は満足の意を表明した。そして1990年12月1日、ガーナは教会活動の再開を許可した。

インターネットで読めるその他の資料

- さらに詳しくは、topics.lds.orgにある「福音のテーマ」から、論文「人種と神権」をお読みください。
- 黒人会員の力強い体験談を読んでください。1978年の啓示の影響を受けた本人が、その啓示が自分の人生と改宗にどんな影響を及ぼしたかを語っています。
 - ウィリアム・アクアと妻シャーロット（ガーナ）、エルベシオ・マルティンスと妻ルダ（ブラジル）、ジョセフ・フリーマンと妻トー（アメリカ合衆国）の体験談は「忠実さの証——公式の宣言二」(lds.org/go/061820a)をご覧ください。
 - ジョージ・リックフォード（イギリス）の体験談は「I Will Take It in Faith」（「信仰をもって力強く進む」）(lds.org/go/061820b)をご覧ください。
 - ビクター・ニュージェント（ジャマイカ）の体験談は「それは真実でした」(lds.org/go/061820c)をご覧ください。
- すでにバプテスマを受ける準備のできた人が何百人もいる西アフリカに派遣された最初の宣教師の画像および動画は、lds.org/go/061820f でご覧になれます。

義にかなった 父親の影響力

義にかなった父親代わりの人々と
天の御父に目を向けることによって、
わたしはまことの父親の務めは何かを学びました。

メーガン・ウォーレン

大人になるまで、わたしには、天の御父のような愛を感じさせてくれるこの世の父親がいませんでした。代わりに、御父の愛を示し、まことの父親の務めの模範となった人々に出会ったのです。大管長会の第二顧問、ジェームズ・E・ファウスト管長（1920 - 2007年）はこう教えています。「わたしたちは気高い父親の姿を通して天の御父の持つ素晴らしい特質をかいまみることができます。」「¹親族や教会指導者、聖典中の義人たち、さらには熱心なホームティーチャーなど、多くの父親代わりの人々の模範を通して、わたしは、天の御父の御性格と、御父を見習うために地上の父親が伸ばすことのできる気高い特質について学びました。最終的に、わたしは、天の御父と密接な関係を築くことで喜びを感じ、この世の父親がいないことで感じていた心の痛みを克服することができたのでした。

確固として、支える

天の御父は不変の御方です。「神は昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方」であると述べられています（モルモン9：9）。この世の気高い父親たちが揺るぎない御方であられる天の御父の模範に従っている姿を、わたしは目にしてきました。気高い父親は、すべてのことにおいて自分の言葉どおりの行動をします。気高い父親は、子供たちが安心感を抱き、愛されていると感じるのに、その一貫性が助けになると理解しています。そして、苦難の時にも喜びの時にも子供たちのそばにいます。



わたしたちの天の御父も、永遠に御父とともに住むのにふさわしくあるために必要とされる苦難について理解しておられます。御父はわたしたち一人一人の名前を御存じであり、わたしたちが精錬されるために数々のチャレンジに出遭うのを許されます。この世の気高い父親も、子供たちが時折苦闘するのをそのままにしておきます。数々のチャレンジが成長の機会をもたらすことを知っているからです。

わたしの夫は優れた武道家です。夫は父親から直接に指導を受け、夫が言うには、父親はほかのだれに対するよりも夫に対して厳しかったそうです。父親の鍛錬が彼を強め、より早く進歩する助けとなりました。天の御父と同じように、この世の気高い父親は、力と愛と支援を与えながら、最善を尽くすよう子供たちを励まします。

「わたしの業は終わりが無い」

天の御父の業は永遠であり、終わりがありません（アルマ 12：25 - 33 参照）。同様に、この世の気高い父親の働きも決して終わりがありません。気高い父親は、絶えず善い働きをなし、義にかなった生活をしようと努めます。誠実かつ正直に神の戒めに従います。家族のために利己的なものを傍らに置きます。「家族——世界への宣言」の中で、生ける預言者たちは次のように教えています。「神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。」² これには物理的な守りだけでなく、霊的な守りも含まれています。気高い父親は模範によって導き、子供たちに愛を示し、助言を与えます。また、必要なときに霊的な危険に対する警告を発します。

力を与える家族の話

New York Times（『ニューヨーク・タイムズ』）紙の記事“*The Stories That Bind Us*”（「わたしたちを結ぶストーリー」）の中で、ブルース・フェイラーは、家族の弱体化に関する研究の概要を述べています。この研究によって、心理学者たちが気づいたことがあります。それは、最大の立ち直りを示した子供たちは、力を与えてくれる家族の話に触れる機会があり、もっと大きなものに自分は属していると感じることのできた人だということです。フェイラーはこう言っています。「もっと幸せな家族を望むなら、あなたの家族の良

かった時期の話と苦難から立ち直った自らの能力を、引き出し、磨き上げ、再現してください。あなたの家族が今後何世代にもわたって繁栄する可能性を高めるのは、その行為だけかもしれません。」³

この例をモーセ書第1章に見ることができます。モーセは神の計画を知り、自分の神聖な特質を知ることによって、力を与えられました。サタンが彼を誘惑しようとしたとき、モーセは力強くこう言いました。「おまえはだれだ。見よ、わたしは、神の独り子にかたどられている神の子だ。おまえの栄光がどこにあるので、わたしがおまえを拝まなければならないのか。」（モーセ 1：13）その後、モーセは勇敢にも、立ち去るようサタンに命じました。

この世の気高い父親は、神の霊の子供としての神聖な特質を思い出させることによって子供たちに力を与えます。良い模範を示すことによって強い家族を築く助けを与え、子供たちがその一員になれるようにします。これによって、子供たちに強い目的意識と達成する自信を与えます。

気高い夫を求める

わたしはデートをしていたときに、気高い父親になろうとする永遠の伴侶を求めていました。子供時代にそのような模範がなく育ったわたしにとって、この世の気高い父親が備えておくべきすべての特質を知るのは難しいことでした。祝福師の祝福で、天の御父からわたしの結婚相手について詳細な指示が与えられなかったことに、わたしはがっかりしました。その中で言われていたのは、神殿にわたしを連れて行ける人を求めるようにということだけでした。しかし、この簡単な指示と思われることさえチャレンジでした。何度か良いデートを経験しましたが、そのような男性がほんとうにいるのだろうか、試練は限りなく続くのではないかとよく心配したものです。

それまでいろいろあったので心配しながらも、わたしは、子供たちの義にかなった父親となり、子供たちを愛し、いつも子供たちの人生に寄り添ってくれる夫を持てるようにと祈り続けました。信仰篤い母親と同じように、わたしは、どのようなことが起こっても、天の御父に頼れば支えていただけるということを知っていました。

驚いたことに、また喜ばしいことに、わたしの祈りは、天の御父の完全な時刻表に基づいてこたえられました。父親の



著者の描いた夫と娘の水彩画。人生における父親代わりの一人であるホームティーチャーに勧められて美術の道に進みました。

あるべき姿についての夫の愛ある模範を目にして、わたしは癒されています。預言者たちや使徒たちが示す模範に夫が従い、自分のことを後回しにしてわたしを大切に、愛してくれていることに、わたしは感謝しています。愛ある夫としてのその模範は、子供たちにも祝福をもたらしています。彼が試練に遭っても忠実であり、熱心に働く模範を示し、神権を行使するのにふさわしくあり、若い父親として純粋な揺るぎない愛を示していることに、わたしは心から感謝しています。

周囲の父親たち

モーセのように、自分が何者であるかを理解している男性の影響力には限界がありません。中央扶助協会会長会の元第二顧問シェリー・デュー姉妹は、すべての女性は成長している過程で、まだ母親になっていなくても、母親の役割を果たすと述べ、次のように証しています。「わたしたちは皆、イスラエルの母であり、若者を愛し、この世の危険な道を無事に歩めるよう導くという召しを受けています。」⁴ 義の模範を示す男性は、イスラエルの父親の役割を果たし、彼らの徳高い模範は、自分の家族の範囲を超えて影響を及ぼします。

わたしは子供時代に数々のチャレンジに出遭いましたが、永遠の伴侶を信頼できるようになるためにわたしに必要な事

柄を天の御父は御存じであったと、確信しています。御父はわたしの人生に多くの確固たる父親の模範を備えてくださいました。主を愛する義にかなった祖父や熱心なホームティーチャーなどがその例です。わたしの家族の経済的な限界を理解していたホームティーチャーは、自分のアートスタジオにわたしを生徒として受け入れ、自分と同じ仕事をするよう励ましてくれました。ヤングアダルトのときに、天からの癒しも与えられ、義にかなった義父を得るという予期せぬ祝福にあずかりました。義父は、わたしが父親代わりの彼を信頼するのに躊躇^{ちゆうちよ}しているのを見ても忍耐を示し、わたしに絶えず思いやりを示してくれました。

このような父親代わりの人たちの義にかなった影響を通じて、わたしは希望と癒しと喜びを見いだしたのです。わたしは、天の御父が示された模範に従い、気高い父親の姿の模範になろうと努めているすべての人に感謝しています。■
筆者はアメリカ合衆国カリフォルニア州在住です。

注

1. ジェームズ・E・ファウスト「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊ぶ」『リアホナ』2001年7月号、54
2. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2017年5月号、145
3. Bruce Feiler, "The Stories That Bind Us," *New York Times*, Mar. 15, 2013, nytimes.com.
4. シェリー・L・デュー「わたしたちは皆、母親ではないでしょうか」『リアホナ』2002年1月号、113



十二使徒定員会
ジェフリー・R・
ホランド長老

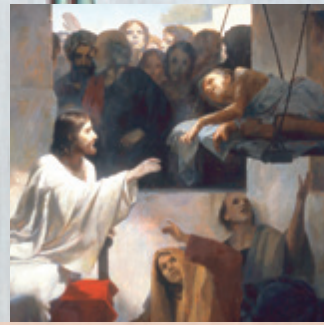
互いに重荷を 負い合う

2017年にLDSファミリーサービス職員に対して行った説教より。ホランド長老はこの説教をより広範囲の読者に向けて書き改めました。

使徒ペテロは、イエス・キリストの弟子は「同情し合」わなければならないと書いています（1ペテロ3：8）。皆さんの多くは、その戒めをきちんと立派に守って日々の生活を送っていると思います。確かにこれまでと同様今日も、思いやりは大いに必要とされています。最新のデータによると、毎年、合衆国の成人のおよそ5人に1人（4,380万人）が精神的な疾患にかかっています。¹ ポルノグラフィ^{まん}が蔓延^{えん}しており、あるウェブサイトはアクセス数が2016年だけで230億回を超えています。² 両親がそろっている世帯の数は、合衆国では〔急激に〕減少しており、その一方で、離婚、……同棲^{どうせい}、〔また、非嫡出子〕が増えています。今日、新生児10人のうち少なくとも4人は、独身女性あるいは婚姻関係にない相手と同居している女性から生まれています。³

救い主の民と呼ばれ、救い主の教会の一員であり続けるためには、「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、また神に贖われ、第一の復活にあずかる人々とともに数えられて永遠の命を得られるように、いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になることを望んで」いなければなりません（モーサヤ18：8－9）。

互いに重荷を負い合うという表現は、イエス・キリストの贖いを簡潔でありながらも力強く言い表していると思います。



この旅を変更することは
できないかもしれませんが、
一人で旅する人がいないように
することはできます。
まさしくそれが重荷を負い合うと
いうことです。



写真：田中真由美「カウ・コミュニティ」

写真：GETTY IMAGES



人の重荷を担おうとするとき、わたしたちは「シオンの山」の「救う者」となります。わたしたちは象徴的な意味において、世の贖い主と足並みをそろえてこの御方の贖いにつながるのです。

人の重荷を取り除こうとするとき、わたしたちは「シオンの山」の「救う者」となります（オバデヤ1:21）。わたしたちは象徴的な意味において、世の贖い主と足並みをそろえてこの御方の贖いにつながり、「心のいためる者をいやし、捕われ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げ」るのです（イザヤ61:1）。

神の共感

しばらくの間、このキリストの贖いについて考えてみましょう。わたしがこの教義を正しく理解しているとすれば、贖罪という行為において、イエス・キリストは身代わりとして、アダムとエバの時代からこの世の終わりまでに生を受ける全人類の罪と苦しみ、悩み、涙を味わい、その重荷を担われました。こうして、イエス・キリスト御自身は文字どおり罪を犯されませんでした。罪を犯した人の苦痛を味わい、罪が招く結果に苦しみました。イエス・キリスト御自身は離婚を経験されませんでした。離婚する人の苦痛を味わい、離婚が招く結果に苦しみました。イエス・キリスト御自身は性的暴行を受けたり、統合失調症やがんにかかったり、子供を亡くされたりしたことはありませんでしたが、そのような経験をする人の苦痛を味わい、そのような経験が招く結果に苦しみ、そのほか人生で負う実に多様な重荷や失意を味わい、その結果に苦しみました。

贖いの業に関するこのような見方は、この世界でだれも知る者のない**共感**の唯一まことの神聖な模範です。明らかに、いかなる言葉も全宇宙で最も重大なこの行為を正確に言い表すことはできませんが、今日、これよりも適切な言葉を知らないのです、その言葉を使います。

共感という言葉は、「過去現在を問わず、ほかの人の感情、思い、経験を理解し……その人の身になって共有する行為」と定義されます。⁴すでに述べた

ように、この言葉は、確かに、贖いのプロセスを言い表すかなり適切な言葉です。特に、「過去」「現在」という言葉に「未来」を付け加えるとそうです。

言うまでもなく、神の子供の中には、ひそかに独りで苦しんでいる人があまりにも多すぎます。例を挙げましょう。一人の若い男性が手紙を書いて寄越しました。きわめて理路整然と証が述べられていました。しかし打ちひしがれているとも書かれていました。同性に引かれる性質があるために、充足感がなく、将来の自分を思い描いても喜びがないからです。

「わたしは生涯、寂しい夜とわびしい朝を迎えるのです。わたしはヤングシングルアダルトのワードに忠実に出席しています。でも、毎週教会から帰ろうとする度に、ほんとうの意味では溶け込めないことを痛感するのです。わたしが息子に自転車の乗り方を教えることは決してないでしょう。歩き始めた娘の手がわたしの指にすぎるのを感じることも決してありません。孫に恵まれることも決してないのです。

来る日も来る日も、毎月毎月、10年また10年、帰る家にはだれもいません。支えとなるのはキリストに対する希望だけです。主がわたしにこのようなことをされてこんな無理な犠牲をささげるようお求めになるのはなぜだろうと、いぶかしく思うこともあります。だれにも見られることもない夜に泣きます。だれにも話したことはありません。両親にも話していません。これまで両親も友人も皆、こんな人を拒否してきました。それとまったく同じように、……もしほんとうのことが分かったら、わたしを拒否するでしょう。わたしは世の中に疎まれて生きていくことになるのです。残された選択肢は、独身を通すことで煙たがられ敬遠されるか、あるいは事情を話して哀れまれ無視されるかのいずれかです。前途には、長く惨めな人生が待ち受けています。ギレアデに乳香はないのでしょうか。」⁵

これほどの苦痛と落胆、絶望を抱え





ていようと、そのような人に必ずしてあげようと努めなければならぬことが一つあります。それは、独りではないと確信させてあげることです。神がともにおられ、天使がともにおり、わたしたちがともにいることを断固として強調する必要があります。

共感。きわめて不適切に聞こえるかもしれませんが、ここから始めるのです。この旅を変更することはできないかもしれませんが、一人で旅する人がいないようにすることはできます。それがまさしく重荷を負い合うということです。それが重荷というものなのです。そのような重荷がいつなくなるのか、あるいは果たして現世でなくなることがあるのかは、だれにも分かりません。しかし、わたしたちはともに歩いて重荷を一緒に負うことができます。イエス・キリストがわたしたちを引き上げてくださったように、わたしたちも兄弟姉妹を引き上げることができます（アルマ7:11-13 参照）。

こういったすべてのことを通して、救い主がわたしたちのために最終的にしてくださったことが新たに、さらにはっきりと分かるようになるのです。以前にも述べたことですが、「このような難しい事柄について多少の平安と理解を得ようと努力するときに決して忘れてはならないのは、わたしたちが現在墮落した世に生きていること、しかもそれを自ら選択したということです。ここは……神のようになることを目指すわたしたち……が、神聖な目的のために繰り返し試され、試練を受ける場なのです。何よりも、神の計画に救い主

が約束されていることを忘れてはなりません。すなわち、主を信じるわたしたちの信仰を通してそのような試しと試練に勝利させ、栄光のうちに高く上げてくださる贖い主です。御子を遣わした御父と、遣わされた御子そのために払われた犠牲は計り知れないものでした。この神聖な愛を正しく認識することで、わたしたちはそれに比べて小さな自分の苦しみにまず耐えられるようになり、次いでそれを理解できるようになって、ついに贖われるのです。」⁶

すぐに分かることですが、自分たちとしては最善かつ最も献身的な奉仕であっても、ほかの人が必要としている方法で慰めたり、励ましたりするうえでは不適切ということはよくあります。もしくは、一度はうまくいっても、次からはうまくいかないように思えることが多々あります。大切に思っている人が逆戻りしていくのを、スーパーヒーローと違って、簡単には防げないこともあります。だからこそ、詰まる場所はイエス・キリストに心を向け、イエス・キリストを信頼しなければならないのです（2 ニューファイ9:21 参照）。

わたしたちには、どうすることもできないことがよくあります。あるいはそこまではいかななくても、助け続けられなかったり、確かに何度かうまくいっても再び同じことができなったりすることがあります。しかし、キリストは助けてくださいます。父なる神もお助けになれます。聖霊もお助けになれます。また、わたしたちは御三方の代理を務め、できるかぎりいつでも、またどこでも助けようと努力し続ける必要があります。



重荷を負い合うという
わたしたちの奉仕は、
きわめて重要です。
それは文字どおり、
主の業なのです。

自らをもう一度強化する

重荷を負い合おうと熱心に努力する皆さんのような人にとって、大切なことは、周りから篤く^{あつ}期待を寄せられ、実際に多くを求められるときに、自分をもう一度強化し、鍛え直すことです。疲れやいらだちを少しも感じない、あるいは自分を大切にする必要がないほど強い人はいないからです。イエスは確かにそのような疲れを経験し、御自分の力が失われていくのを感じられました。イエスはただただ与え続けられました。しかし、その行為には代価が伴い、御自分に頼る実に多くの人々の影響を受けられました。長血を患っていた女性が群衆の中で主に触れたとき、イエスはこの女性を癒されましたが、同時に「自分の内から力が出て行った」ことに気づかれました（マルコ5：25 - 34 参照）。

いつも驚くことですが、イエスはガリラヤ湖で起こった嵐、しかも腕利きの漁師である弟子たちが船は沈むと思うほどに強烈な嵐の中で、眠ることがおできになったのです。どれほど疲れ果てておられたことでしょうか。何度も説教すれば、また何度も祝福すれば、だれでも必ず疲れ果ててしまうのではないのでしょうか。世話をする人も、世話をしてもらう必要があるのです。タンクに燃料が入っていなければ、ほかの人に与えることはできません。

ロザリン・カーター介護研究所の役員会理事長であるロザリン・カーターは、かつてこう述べました。「世の中には4種類の人しかいません。世話してきた人、現在世話している人、将来世話する人、将来世話してくれる人が必要になる人。」⁷

紛れもなく、「世話をする人と世話を受ける人との関係は、〔重大な関係、より適切な言い方をすれば〕神聖な関係です。」⁸しかし、重荷を負い合うという困難な奉仕をするとき、わたしたちは

次のことを記憶しなければなりません。大切な人の苦痛に共感するとき、だれ一人としてその影響を免れることはできないということです。

バランスを求める

世話をする役割と、仕事、家族、趣味など人生の様々な分野とのバランスを取る方法を見いだすことは大切です。このテーマに関する総大会説教でわたしは、「皆さんすべてに敬意を表〔すよう〕」努めました。「皆さんは多くのことをなし、深い思いやりを示し、『善を行うという意図』の下に働いています。惜しみなく持てるものをささげている方が大勢います。中には自分の生活も〔情緒面あるいは経済面で大変である〕にもかかわらず、何かしら〔周りの人と〕分かち合っている人もいます。しかし、ベニヤミン王がその民に警告しているように、わたしたちは自分の力以上に速く走ることは求められていません。何事も秩序正しく行うべきです（モーサヤ4：27 参照）。」⁹とは言っても、わたしは皆さんの多くが非常に速く走り、時として、体力と気力が底を突かんばかりであることを知っています。

問題があまりにも大きすぎるように思えるとき、デビッド・バッチェイのエッセーにある次の言葉を思い起こしてください。

「希望は感情ではない。それは問題のただ中であって生じる大きな喜びの渦ではない。

……希望は魔法のつえではない。振れば問題がたちまちにして消えうせることはない。希望は命綱である。人生の嵐に打ちのめされないようあなたを守る力がある。

イエスに希望を置くとき、あなたはこの御方の約束に信頼を置く。つまりイエスはあなたを決して置き去りにしたり、見捨てたりなさない、あなたにとって最善のことをしてくださるという約束である。途方もなく大きな問題のただ中であっても、希望があれば平安でいられる。また、この道を一步一步歩むごとに、イエスがともにいてくださることを

知ることができる。』¹⁰

わたしはパウロが無力感や苦悩とどのように取り組んだかに深い感動を覚えます。聖文の中で、主は御自分の恵みはパウロに対して十分であり、御自分の力は「弱いところに完全にあらわれる」と語られました。パウロはこう書いています。「それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。」(2 コリント 12 : 9)¹¹



御父と御子を信頼する

天の父なる神とイエス・キリストはわたしたちやわたしたちの行いを心から大事にしておられ、神の力がわたしたちの「弱いところに完全に」表れるよう望んでおられます。それはあなたが大切な人に対して抱く望みと同じです。このことを信じなければなりません。

神はわたしたちの重荷を御存じであり、わたしたちが周りの人を力づけてあげられるように、力を与えてくださることを証します。それは問題が必ずなくなるとか、世界に突然平和が訪れるとかいう意味ではありません。しかし、祈っても耳を傾けてもらえないという意味でもありません。また、伴侶に先立たれた人、離婚した人、孤独な人、打ちひしがれている人、依存症を患っている人、病気の人、希望を失った人など、あなたが大切に思うすべての人の祈りが聞き届けられないという意味でもありません。¹²

兄弟姉妹の皆さん、重荷を負い合うというわたしたちの奉仕は、きわめて重要です。それは文字どおり、主の業なのです。わたしの事務所に届く手紙の数は、どれほど助けが必要かを浮き彫りにします。その助けは、苦しむ者に与えられる天からのマナです。

わたしは以前にこう言ったことがあります。「神の御手に使われる者という意味では、すべての天使が幕のかなたから遣わされるのではないということを感じておきましょう。ここで、今、そして日々、ともに歩き語り合う人の中にも天使はいます。近所に住む人の中にもいます。わたしたちを産ん

でくれた人たちもそうです。わたしにとっては、結婚してくれた人も天使の一人です。善良で清い人々の、親切で献身的な行いの中に神の愛を見るときほど、天を身近に感じるときはありません。彼らの善良さと清さを言い表すのに『天使のような』という言葉以外は思い浮かびません。』¹³

重荷を負い合おうと努力する人たちは、わたしにとってほんとうに文字どおり、憐れみに満ちた天使です。皆さんが周りの人に与えようとして払ったすべての努力に対して 100 倍の報いがありますように。■

注

1. See "Mental Health by the Numbers," National Alliance on Mental Illness, nami.org.
2. See "World's Largest Porn Site Reveals the Most-Searches Porn Genre of 2016," Fight the New Drug, Jan. 9, 2017, fightthenewdrug.org.
3. "Parenting in America," Pew Research Center, Dec. 17, 2015, pewsocialtrends.org; see also D'Vera Cohn and Andrea Caumont, "10 Demographic Trends That Are Shaping the U.S. and the World," Pew Research Center, Mar. 31, 2016, pewsocialtrends.org.
4. Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 11th ed. [2003], "empathy."
5. 信書
6. ジェフリー・R・ホランド「破れた器のように」『リアホナ』2013年11月号、40 参照
7. See rosallynnrcarter.org/UserFiles/Jensen.pdf; see also Rosalynn Carter, in Randi Kaplan, "How to Care for the Caregiver," May 13, 2015, health.usnews.com.
8. Nancy Madsen-Wilkerson, "When One Needs Care, Two Need Help," *Ensign*, Mar. 2016, 38 - 39
9. ジェフリー・R・ホランド「一握りの粉と少しの油」『聖徒の道』1996年7月号、37
10. David Batty, "Finding Hope in the Midst of Life's Problems," livingfree.org.
11. See Anne C. Pingree, "Making Weak Things Become Strong," *Ensign*, Dec. 2004, 28 - 30.
12. ダリン・H・オークス「主は重荷を負っている人を癒される」『リアホナ』2006年11月号、6 - 9 参照
13. ジェフリー・R・ホランド「天使の務め」『リアホナ』2008年11月号、30





第 4 章

目を覚ましていなさい

これは、『聖徒たち——末日におけるイエス・キリスト教会の物語』という、4巻にわたる新しい教会歴史物語の第4章です。この物語は14の言語で、印刷物および「福音ライブラリー」アプリの「Church History (教会歴史)」の項、saints.lds.org/jpnで読めるようになります。これに続く数章は、第1巻が年内に公開されるまで、本機関誌に順次掲載される予定です。47の言語で「福音ライブラリー」アプリとsaints.lds.orgでも公開予定です。

21 歳になるエマ・ヘイルがジョセフ・スミスのことを初めて耳にしたのは、1825年の秋、ジョセフがジョサイア・ストールのもとで働くようになったころのことです。ジョサイアはこの青年とその父親を、自分の所有地に埋められた宝を探し当てる手助けとして雇います。¹ 地元の言い伝えによると、何百年も前、探検家の一団が、銀山を採掘して得た宝をこの一帯に隠したということでした。ジョセフに聖見者の石を使う特別な力があると知ったジョサイアは、探索を手伝ってくれたら、高額の賃金を支払い、見つけた宝の分け前を与えるとジョセフに持ちかけてきたのです。²

エマの父親であるアイザックは、この冒険的な事業を支援しました。ジョセフとその父親がペンシルベニア州ハーモニー（パルマイラから南へおよそ150マイル〔240キロ〕の所にある村）にあるストールの農場にやって来たとき、アイザックは契約の立会人を務め、労働者たちを自宅に泊めてくれたのでした。³

それから間もなくして、エマはジョセフに出会います。ジョセフはエマより年下で、背丈は6フィート〔約183センチ〕以上あり、力仕事には慣れているようでした。色白で目は青く、少し足を引きずるような歩き方をしていました。文法の知識が不十分で、自分の考えを述べる際に回りくどくなることもしばしばありましたが、話すときには自然と知性がにじみ出るような人物でした。ジョセフと彼の父親は善良で、エマとその家族が信奉していた教会に出席するよりは、独自の判断で礼拝するのを好みました。⁴

ジョセフとエマは二人とも、野外活動が好きでした。子供のころから、エマは乗馬

と、自宅近くを流れる川でのカヌー遊びが大好きでした。ジョセフは乗馬に長けてはいなかったものの、レスリングや球技は大の得意でした。周囲の人々と気兼ねなく接し、笑顔絶やさず、よく冗談を言ったり、面白い話をしたりしました。エマはジョセフより控えめな性格でしたが、愉快的な冗談が大好きで、だれとでも気さくに話げできました。読書や歌うことも好きでした。⁵

数週間がたち、エマがジョセフとさらに親しくなるにつれて、エマの両親は二人の関係について不安を募らせていきます。ジョセフはほかの州からやって来た貧しい労働者でした。エマの両親は、娘がジョセフに対する関心をなくし、地元の裕福な家の一つに嫁ぐことを望んでいたのです。また、エマの父親は宝探しに対して警戒心を強めるようになり、この事業におけるジョセフの役割に懐疑的でした。宝など何一つ出てこないと分かったとき、ジョセフは宝探しを打ち切るようジョサイア・ストールを説得しようとしていましたが、アイザック・ヘイルはそのようなことを意に介さないようでした。⁶

エマは自分の知るどの男性よりもジョセフが好きだったので、ジョセフと過ごすのをやめることはありませんでした。銀山探しをやめるようジョサイアを首尾よく説得できた後も、ジョセフはハーモニーにとどまり、ジョサイアの農場で働き続けました。時々、同じ地域で別の農場を営むジョセフ・ナイトとポリー・ナイトのもとで働くこともありました。仕事が休みになると、ジョセフはエマに会いに行くのでした。⁷

ハーモニーでは、ジョセフと彼の所持する聖見者の石がたちまちうわさの的となりました。町の老人たちの中には聖見者のことを信じている人もいましたが、その子供や孫たちの多くは信じていませんでした。ジョサイアの甥は、ジョセフがおじにつけ入ってうまく利用していると主張し、ジョセフを詐欺罪で裁判所に訴えます。

地元判事の前に立ったジョセフは、その石を見つけた経緯を説明しました。ジョセフ・シニアは、聖見者としてのジョセフの驚嘆すべき賜物に対する御心を示してくださるよ

2015年、教会はペンシルベニア州ハーモニーに、アイザック・ヘイルとエリザベス・ヘイルの自宅の複製を再建しました。ジョセフ・スミスは、ジョサイア・ストールのもとで働きながら二人の家で暮らし、二人の娘のエマと出会いました。





ニューヨーク州マンチェスターにあった、スミス家の木造の家は、元の骨組みを使って再建されました。1827年に結婚すると、ジョセフとエマはこの家でジョセフの両親とともに暮らしました。

う何度も神に願い求めたことを証言しました。最後にジョサイアが法廷に立ち、ジョセフは自分をだましてなどいないと声明しました。

判事はこう尋ねました。「つまり、あなたは被告が石の助けによって隠されたものを見ることができると信じているのですね。」

ジョサイアは、きっぱりとした口調で言いました。「いいえ、わたしはそのことが紛れもない真実であると知っているのです。」

ジョサイアは地域でも一目置かれている人物で、人々は彼の言葉を信じました。結局、聴聞会で、ジョセフがジョサイアをだましたという証言はだれからも得られず、判事は訴えを棄却することとなります。⁸

1826年9月、ジョセフは版を取り出すために丘へと戻りましたが、まだそれらを受け取る備えができていないとモロナイは言いました。「鉾山採掘者たちとの交わりを断ちなさい。」天使はそう告げます。彼らの中には邪悪な者もいたからです。⁹ モロナイは、ジョセフが自身の思いを神の御心に沿わせられるよう、さらに1年の年月を与えました。そうした備えができなければ、版がジョセフに託されることは決まらないうえです。

また天使は、次に丘へ来るときにはだれかを一緒に連れて

来るようにと告げます。ジョセフが最初に丘を訪れたときにも、天使は最後に同様の指示を与えていました。しかし、アルビンがすでに亡くなっていたため、ジョセフは当惑します。

「だれを連れて来ればよいのでしょうか」とジョセフは尋ねました。

「いずれ分かるだろう。」モロナイはそう答えました。

聖見者の石を通して、ジョセフが主の指示を求めたところ、適任者が分かりました。それはエマだったのです。¹⁰

ジョセフはエマをひと目見て、すぐさま彼女に惹かれました。アルビンと同様、エマは、ジョセフが主の業を遂行し、主に必要とされる者となるうえで助け手となる人物だったのです。しかし、エマは単なる助け手以上の存在でした。ジョセフはエマを愛しており、彼女との結婚を望んでいたのです。¹¹

12月、ジョセフは21歳になりました。かつて、ジョセフは自身の賜物を利用しようとする人々の思惑に振り回されることがありました。¹² しかし、最後に丘を訪れてからというもの、ジョセフは版を受け取るに当たって自身を備えるうえで、これまで以上に多くのことを成す必要があると自覚するようになります。

ハーモニーに戻る前、ジョセフは両親と話をし、「結婚することにしました」と告げます。「お二人が反対でなければ、



1827年9月22日のある晩、ジョセフとエマは馬車に乗って、モルモン書が埋められていたこの丘まで来ました。金版を手に入れると、ジョセフは宝を探す人々からそれを守るために、一定期間、中をくりぬいた丸木の中に隠していました。

エマ・ヘイルさんを妻に迎えたいと思います。」両親はジョセフの決意を喜び、ルーシーは、結婚後に自分たちと一緒に住むよう強く勧めました。¹³

その冬、ジョセフはできるだけ多くの時間をエマと過ごしました。雪のためにヘイル家までの道のりを移動するのが大変なときには、ナイト家のそりを借りることもありました。しかし、エマの両親は相変わらずジョセフを嫌っており、ヘイル一家に気に入ってもらおうとするジョセフの努力は報われませんでした。¹⁴

1827年1月、エマはストール宅を訪れます。エマとジョセフはそこで、家族のとがめるような視線から逃れてともに時間を過ごすことができました。ジョセフはストールの家でエマにプロポーズをしました。はじめ、エマは驚いた様子でした。エマには、両親が結婚に反対するであろうことが分かっていたのです。¹⁵ それでも、ジョセフは結婚について考えてくれるようエマを熱心に説得しました。二人はすぐさま駆け落ちすることもできたのです。

エマは結婚の申し出についてよく考えました。ジョセフと結婚すれば両親を落胆させることになるでしょうが、それはエマ自身が選択することであり、エマはジョセフを愛していたのです。¹⁶

それから間もない1827年1月18日、ジョセフとエマは地元の治安判事宅で婚姻手続きを済ませました。その後、二人はマンチェスターに向かい、ジョセフの両親の新しい住居で一緒に暮らし始めます。その家は快適でしたが、ジョセフ・シニアとルーシーはこの新居のために多額の出費をし、支払いが滞ったために資産を手放すことになりました。そうして新しい持ち主からその家を借り受けることになったのです。¹⁷

スミス夫妻はジョセフとエマとの同居を喜んでいましたが、息子に授けられた神からの召しは心配の種でもありました。地域の住民は金版について耳にしており、時折出かけて行ってはそれを探し回っていたのです。¹⁸

ある日のこと、ジョセフは用事で町へ出かけていきました。夕食までに戻って来ると思っていた両親は、ジョセフがなかなか帰宅しないことに不安を覚えます。両親は眠れないままに、何時間も待ちました。ようやくドアが開いたかと思うと、ジョセフは疲れ切った様子でどっと椅子に座り込みました。

「どうしてこんなに遅くなったんだい？」と父は尋ねました。「これまでに経験したことがないほどの、ひどい叱責を受けたのです」とジョセフは答えます。

「一体だれにとがめられたんだ？」父は問いただします。「主の天使です」とジョセフは答えました。「わたしが怠

情であったと言うのです。」次にモロナイと会う日が間近に迫っていました。「直ちになすべきことを行う必要があります」とジョセフは言いました。「神から命じられたことをすぐにも始めなければならないのです。」¹⁹

秋の収穫が終わり、ジョサイア・ストールとジョセフ・ナイトは仕事でマンチェスター地域に赴きました。二人とも、ジョセフが4度目に丘を訪れる日がもう近いことを知っており、モロナイがついに金版をジョセフに託すかどうか、知りたくてたまらなかったのです。

地元の宝探しの連中も、ジョセフが記録を手にする時が来ていることを知っていました。近ごろ、連中の一人でサミュエル・ローレンスという男が、丘をうろつきながら版を探しています。サミュエルが問題を起こすことを心配したジョセフは、9月21日の夜、父親をサミュエルの家に向かわせました。彼を見張り、もし丘へ向かうようであれば阻止するためです。²⁰

その後、ジョセフは版を取り出す手はずを整えました。年に1度の丘への訪問を翌日に控えていましたが、ジョセフは宝探しの連中を出し抜くため、真夜中を少し過ぎたころ、すなわち9月22日の夜明けに、丘に到着するよう計画しました。だれもジョセフが出かけるとは思わないような時間帯です。

それだけではありません。いったん手に入れた版を守る手立てを考える必要もありました。家族のほとんどが床に就いてから、ジョセフはそっと母親に、鍵付きの箱を持っているかと尋ねました。ルーシーはそのような箱を持っておらず、心配し始めます。

「大丈夫です」とジョセフは言いました。「それがなくても、きちんと首尾よくやれますから。」²¹

間もなくして、馬車に乗る支度を整えたエマが出て来ました。エマとジョセフはジョセフ・ナイトの馬車に乗り込むと、夜のとばりへと出発します。²² 丘に到着すると、ジョセフが版の隠された場所に向かって丘を登って行き、その間エマは馬車のそばで待ちました。

モロナイが姿を現し、ジョセフは石の箱から金版と聖見者の石を取り出しました。ジョセフが丘を降り始める前、モロナイはジョセフに、主が示された人々を除き、だれにもその版を見せてはならないことを思い起こさせました。そして、ジョセフが版を保存するためにあらゆる努力を尽くすならば、それらは守られると約束しました。

モロナイはジョセフに次のように告げました。「あなたは目を覚ましていて、自分に託された信頼に忠実でなければならない。さもなければ、邪悪な者たちに打ち負かされるであろう。その者たちは、あなたから版を奪い取るためにありとあらゆる策と陰謀を巡らすからである。また、あなたが絶えず注意していなければ、彼らはその企てを成し遂げるであろう。」²³

ジョセフは版を丘から運び降ろしましたが、馬車にたどり着く前に、中が空洞の丸木の中に版を隠しました。鍵付きの箱が手に入るまで安全に保管しておくためです。それからエマを見つけると、二人は日が昇り始めるころに帰宅しました。²⁴

一方スミス家では、ルーシーがジョセフ・シニア、ジョセフ・ナイト、ジョサイア・ストールに朝食を給仕する間も気をもみつつ、ジョセフとエマの帰りを待ちわびていました。忙しく働く間にも、息子が版を持たずに帰って来るのではないかと心配するあまり、ルーシーの心臓は激しく鼓動していました。²⁵

程なくして、ジョセフとエマが家に入ってきました。ルーシーはジョセフが版を持っているかどうか確かめようと目を凝らしましたが、ジョセフが手に何も持っていないのを目にすると、震えながら部屋を立ち去りました。

ジョセフは母親の後を追いかけて、「母さん、心配しないでください。」ジョセフはルーシーに、ハンカチにくるんだ物を手渡します。布地を通して、ルーシーは大きな眼鏡のような物の存在を感じ取りました。それは、ウリムとトンミム、すなわち版の翻訳のために主が備えられた聖見者の石だったのです。²⁶

ルーシーは喜びに満たされました。ジョセフは、その肩から重荷が取り去られたかのように見えます。しかし、家にいるほかの人々と食卓に着くと、ジョセフは悲しげな表情を浮かべ、無言で朝食を取りました。食べ終わると、ジョセフはうちひしがれた様子で頭を手にもたれかけます。「残念です。」ジョセフはジョセフ・ナイトに言いました。

ナイト老人は「なんと、それは残念なことだ」と言います。「ほんとうにがっかりです。」そう繰り返しつつ、ジョセフの表情はほほえみへと変わりました。「想像していたよりも、はるかにすばらしいものです。」ジョセフは続けて、版の大きさと重さについて説明し、ウリムとトンミムについて興奮した口ぶりで話しました。

「何でも見えます。」ジョセフはそう言いました。「実にすばらしいものです。」²⁷

版を受け取った翌日、ジョセフは働きに出かけました。近くの町で井戸の修理をし、鍵付きの箱を手に入れる資金を稼ぐためです。同日の朝、スミス家から丘を越えてすぐの所へと用事に出かけたジョセフ・シニアは、金版を奪おうと企む男たちの一団が話しているのをふと耳にします。一団の一人がこう言いました。「俺たちが版を手に入れるんだ。相手がジョセフ・スミスだろうと地獄のすべての悪魔だろうとな。」

驚いたジョセフ・シニアは家に戻り、エマにそのことを話します。エマは自分も版がどこにあるのかは知らないと言いましたが、ジョセフがそれを安全に保管していることを確信していました。

「そうだろうとも」とジョセフ・シニアは答えました。「だが、ほんの小さなことのために、エサウが自分の祝福と長子の特権を失ったことを忘れちゃいけない。ジョセフも同じ間違いを犯さないようにしないと。」²⁸

エマは馬に飛び乗ると、版が無事であることを確認するために、ジョセフが働いている農場まで1時間以上もの間、馬を走らせた。エマは井戸のそばで、その日の労働で汗と泥にまみれたジョセフを見つけます。差し迫る危険について聞いたジョセフは、ウリムとトンミムをのぞき込み、版が無事であることを確かめました。

一方家では、ジョセフ・シニアが家の外を歩きつ戻りつしながら、ジョセフとエマの姿が見えるまで、毎分ごとに道路の先に目をやっていました。

馬の背に乗りつつ、ジョセフは言いました。「父さん、すべては間違いなく無事です。心配するには及びません。」²⁹

しかし、行動すべき時は来ていました。

ジョセフは丘へと急ぎ、版が隠されている丸木を見つけると、それを注意深くシャツでくろみまました。³⁰ それから、森の中へと素早く身を隠し、危険に備えて絶えず目を配りながら家へと向かいました。森のおかげで、本通りにいる人々からジョセフの姿は見えませんが、森には泥棒たちが隠れる場所もまたあちこちにあります。

記録版の重みにあえぎつつも、ジョセフは森の中をできるだけ足早に通り抜けて行きます。行く手をささぎる1本の倒木を跳び越えたとき、ジョセフは後ろから何か硬い物で殴られたのを感じました。振り向くと、銃をこん棒のように振り

回しながら近づいて来る男の姿が目に入りました。

一方の腕で版をしっかりと抱え込んだまま、ジョセフはその男を地に殴り倒し、茂みのさらに奥深くへと分け入りました。1キロほど走ったところで、今度は別の男が木の陰から飛びかかり、銃の台尻でジョセフに殴りかかります。ジョセフはその男を撃退すると走って逃げ、必死の思いで森から抜け出そうとしました。しかし、そう遠く行かないうちに、3人目の男が襲いかかります。強い一撃を受け、ジョセフの体はふらつきました。ジョセフはあらん限りの力でその男を激しく殴ると、家に向かって走り出しました。³¹

家にたどり着いたジョセフは、重い包みを片方の腕の下にしっかりと抱え込み、ドアを突き破るかのような勢いで中に駆け込んで来ました。ジョセフはこう叫びました。「父さん、版を手に入れました。」

ほかの家族がジョセフを取り囲む中で、14歳になる妹のキャサリンが、包みをテーブルの上に置くのを手伝いました。父親と弟のウィリアムが版の包みを解きたいと望んでいることは分かっていたのですが、ジョセフは二人を止めました。

「見ることはできないのかい？」ジョセフ・シニアが尋ねます。

「できません」とジョセフは答えました。「最初は不従順でしたが、今度こそは忠実でありたいと思うのです。」

ジョセフが、布地越しであれば版に触れてもいいと言ったので、弟のウィリアムは包みを持ち上げました。包みは石よりも重く、本のページのようにめくることのできる薄い板から成っていることを、ウィリアムは見取ります。³² また、ジョセフは末の弟ドン・カールスを、ハイラムのもとへ鍵付きの箱を取りに行かせました。ハイラムは妻のジェルシャと生まれたばかりの娘とともに、通りの少し先に住んでいました。

間もなくして、ハイラムが到着しました。版が無事その箱に保管されると、ジョセフは近くにあったベッドに倒れ込み、森にいた男たちについて家族に話し始めました。

話しているうちに、ジョセフは手の痛みに気づきます。何度か攻撃を受けている間に、親指を脱臼していたのです。

ジョセフは不意にこう言いました。「話すのはやめて、父さんに親指を元に戻してもらわなくては。」³³ ■

引用元の文献の全リストは、saints.lds.org (英語) でご覧いただけます。「テーマ」という言葉が注釈にある場合は、追加情報がオンライン (saints.lds.org/jpn) に掲載されています。

注

1. Agreement of Josiah Stowell and Others, Nov. 1, 1825, in *JSP*, D1: 345 – 52



ジョセフはこのような形をした鍵付きの箱を兄のハイラムから借りて、モルモン書の版を保管していました。

2. Smith, *Biographical Sketches*, 91 – 92; Oliver Cowdery, “Letter VIII,” *LDS Messenger and Advocate*, Oct. 1835, 2: 200 – 202; Joseph Smith History, 1838 – 56, volume A-1, 7 – 8, in *JSP*, H1:234 (draft 2); Smith, *On Mormonism*, 10 テーマ: 宝探し
3. Agreement of Josiah Stowell and Others, Nov. 1, 1825, in *JSP*, D1: 345 – 52
4. Pratt, *Autobiography*, 47; Burnett, *Recollections and Opinions of an Old Pioneer*, 66 – 67; Woodruff, *Journal*, July 4, 1843, and Oct. 20, 1855; Emmeline B. Wells, “L.D.S. Women of the Past,” *Woman’s Exponent*, Feb. 1908, 36: 49; Joseph Smith III, “Last Testimony of Sister Emma,” *Saints’ Herald*, Oct. 1, 1879, 289; see also Staker and Ashton, “Growing Up in the Isaac and Elizabeth Hale Home”; and Ashurst-McGee, “Josiah Stowell Jr.–John S. Fullmer Correspondence,” 108 – 17
5. Baugh, “Joseph Smith’s Athletic Nature,” 137 – 50; Pratt, *Autobiography*, 47; Burnett, *Recollections and Opinions of an Old Pioneer*, 66 – 67; *Recollections of the Pioneers of Lee County*, 96; Younggreen, *Reflections of Emma*, 61, 67, 65, 69; Emmeline B. Wells, “L.D.S. Women of the Past,” *Woman’s Exponent*, Feb. 1908, 36: 49
6. Joseph Smith History, 1838 – 56, volume A-1, 8, in *JSP*, H1: 234 (draft 2); Smith, *Biographical Sketches*, 92; Bushman, *Rough Stone Rolling*, 51 – 53; Staker, “Isaac and Elizabeth Hale in Their Endless Mountain Home,” 104
7. Joseph Smith History, 1838 – 56, volume A-1, 7 – 8, in *JSP*, H1: 234 – 36 (draft 2); Knight, *Reminiscences*, 2; Joseph Smith III, “Last Testimony of Sister Emma,” *Saints’ Herald*, Oct. 1, 1879, 290
8. William D. Purple, “Joseph Smith, the Originator of Mormonism,” *Chenango Union*, May 2, 1877, [3]; see also An Act for Apprehending and Punishing Disorderly Persons [Feb. 9, 1788], *Laws of the State of New-York* [1813], 1: 114 テーマ: 1826年 — ジョセフ・スミスの裁判
9. “Mormonism — No. II,” *Tiffany’s Monthly*, July 1859, 169
10. Knight, *Reminiscences*, 2
11. Lucy Mack Smith, History, 1844 – 45, 96; see also Knight, *Reminiscences*, 2
12. See “The Original Prophet,” *Fraser’s Magazine*, Feb. 1873, 229 – 30
13. Lucy Mack Smith, History, 1845, 97
14. Knight, *Reminiscences*, 2; Joseph Smith III, “Last Testimony of Sister Emma,” *Saints’ Herald*, Oct. 1, 1879, 289
15. Joseph Smith III, “Last Testimony of Sister Emma,” *Saints’ Herald*, Oct. 1, 1879, 289; Joseph Smith History, 1838 – 56, volume A-1, 8, in *JSP*, H1: 236 (draft 2)
16. Joseph Smith III, “Last Testimony of Sister Emma,” *Saints’ Herald*, Oct. 1, 1879, 290; Joseph Lewis and Hiel Lewis, “Mormon History, A New Chapter, about to Be Published,” *Amboy Journal*, Apr. 30, 1879, 1; see also Oliver Cowdery, “Letter VIII,” in *LDS Messenger and Advocate*, Oct. 1835, 2: 201
17. Joseph Smith History, 1838 – 56, volume A-1, 8, in *JSP*, H1: 236 (draft 2); Lucy Mack Smith, History, 1844 – 45, book 4, [11] – [12]; book 5, [1] – [3] テーマ: 聖なる森とスミス一家の農場
18. “Mormonism — No. II,” *Tiffany’s Monthly*, July 1859, 167 – 68
19. Lucy Mack Smith, History, 1844 – 45, book 5, [4] – [6]
20. Knight, *Reminiscences*, 2
21. Lucy Mack Smith, History, 1844 – 45, book 5, [6]
22. Lucy Mack Smith, History, 1845, 105
23. Lucy Mack Smith, History, 1844 – 45, book 6, [1]
24. “Mormonism — No. II,” *Tiffany’s Monthly*, June 1859, 165 – 66; Lucy Mack Smith, History, 1844 – 45, book 5, [6]
25. Lucy Mack Smith, History, 1844 – 45, book 5, [6] – [7]; Knight, *Reminiscences*, 2
26. Lucy Mack Smith, History, 1844 – 45, book 5, [7] – [8]
27. Knight, *Reminiscences*, 2 – 3; Joseph Smith History, 1838 – 56, volume A-1, 5, in *JSP*, H1: 222 (draft 2); アルマ 37: 23 も参照
28. Lucy Mack Smith, History, 1844 – 45, book 5, [8] – [10]; “Mormonism — No. II,” *Tiffany’s Monthly*, Aug. 1859, 166; Smith, *Biographical Sketches*, 103; 創世 25: 29 – 34 も参照
29. Lucy Mack Smith, History, 1844 – 45, book 5, [10] and adjacent paper fragment
30. Lucy Mack Smith, History, 1844 – 45, book 5, [11] テーマ: 金版
31. Lucy Mack Smith, History, 1844 – 45, book 5, [11]
32. “The Old Soldier’s Testimony,” *Saints’ Herald*, Oct. 4, 1884, 643 – 44; Salisbury, “Things the Prophet’s Sister Told Me,” 1945, Church History Library; Ball, “The Prophet’s Sister Testifies She Lifted the B. of M. Plates,” 1954, Church History Library; Smith, *William Smith on Mormonism*, 11; Lucy Mack Smith, History, 1844 – 45, book 5, [11]; Joseph Smith III, “Last Testimony of Sister Emma,” *Saints’ Herald*, Oct. 1, 1879, 290
33. Lucy Mack Smith, History, 1844 – 45, book 5, [11] – [12] テーマ: ルーシー・マック・スミス

こんなところに教会が

わたしは36歳で教会に入り、靈的に強いときもあれば、ただ忠実なふりをしているだけのときもありました。忙しすぎる仕事のスケジュール、新たなキャリアを始める妻、体調不良などの難題に、靈的にもがき始めていました。教会に出席し、執事定員会を教えるのを手伝っていましたが、それが精いっぱいでした。聖典を開いたり、ひざまずいて祈ったりする気力はありませんでした。

チリ北部へ出張に出かけたときも、わたしはまだもがいていました。コピアポの空港から車で2時間かけて、チリのアタカマ砂漠にある太陽熱装置事業の現場に向かいました。何て遠い所なんだろうと驚きました。赤い砂漠が延々と続いています。その荒涼と

した景色は衝撃的でさえありました。

現場に滞在して1週間ほど過ぎたころ、買い物をしに最寄りの町まで車で向かいました。そこである建物が目に留まり、運転手に車を止めてくれるように頼みました。その建物は、黒い錬鉄柵に囲まれた美しい敷地に建っていて、正面に「La Iglesia de Jesucristo de los Santos de los Últimos Días」つまり「末日聖徒イエス・キリスト教会」という見慣れた看板がありました。

「こんなところに教会があるのか」とわたしは思いました。このような遠く離れた地域に教会が建てられていることに驚きました。集会所の写真を携帯で撮影し、メールに添付して妻に送信しました。妻からの返信に、はっとさせられました。「天の御父はあらゆる

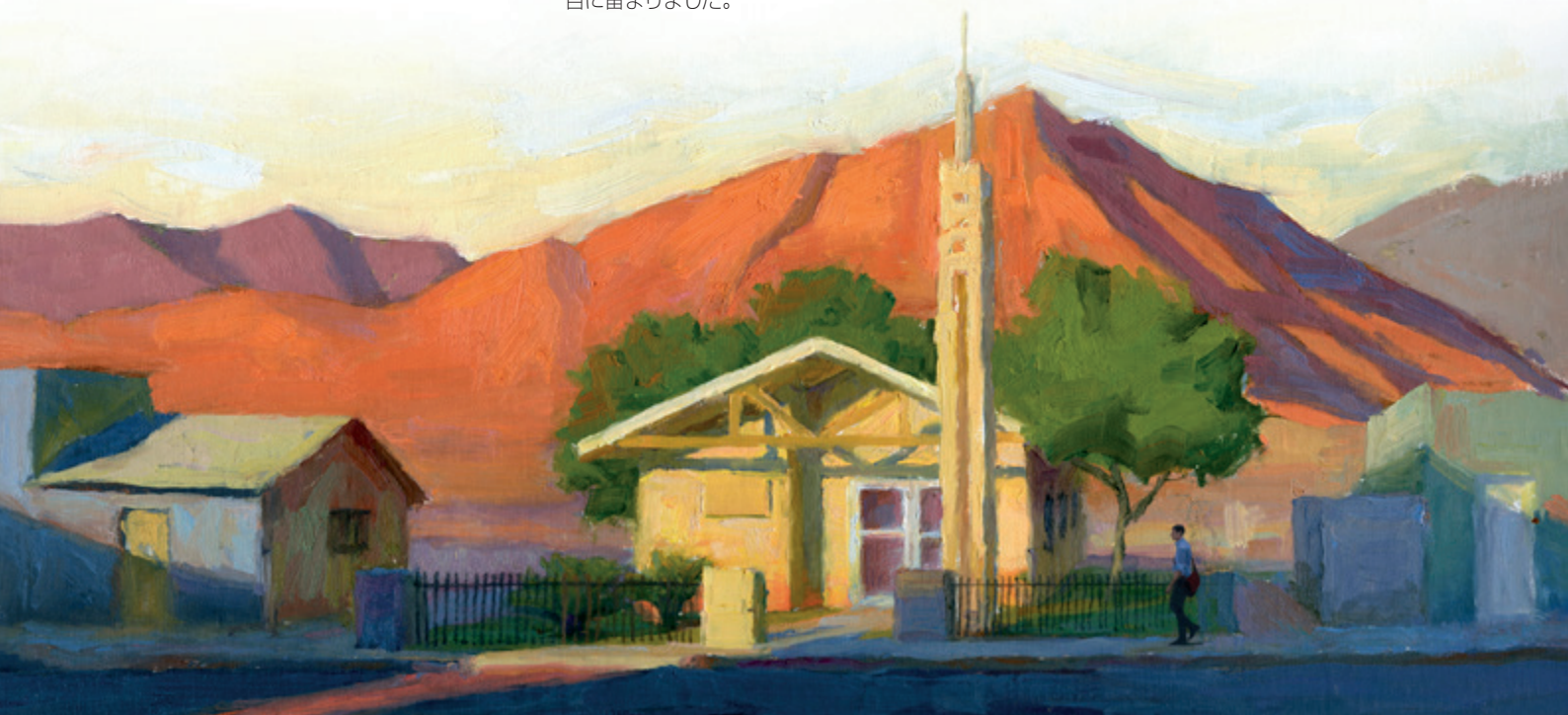
所にいる御自分の民を御存じなのよ。」

これはまさに天の御父からわたしへの直接のメッセージでした。日々の生活から来るストレスにさらされ、天の御父が御自分のすべての子供たちを愛しておられることを忘れてしまっていたわたしは、そのことを思い起こす必要がありました。天の御父は砂漠の真ただ中にあるあの小さな辺境の町の聖徒たちのことも、そしてわたしのことも愛してくださっているのです。

その夜、わたしはひざまずくと、天の御父がその日与えてくださった祝福に感謝しました。天の御父が愛してくださっていることを知ることで、靈的に立ち直ることができ、日々強められています。■

ジョン・エバンス(アメリカ合衆国、カリフォルニア州)

買い物をしに最寄りの町まで車で向かうと、ある建物が目に留まりました。



二人の伝道から祝福を受けた二つの家族

アリゾナ州メサ伝道部で奉仕していたとき、わたしはアルゼンチンに住む姉のナタリアから頻繁に電子メールを受け取りました。彼女は教会の会員ではありませんでした。数年前、姉の娘が亡くなったとき、家族は福音を伝えようとしたのですが、姉は聞く耳を持っていませんでした。

わたしは伝道中に姉に証を伝え続けました。ある日、わたしと同僚が会った女性について姉への電子メールに書きました。その女性の娘も亡くなっていました。わたしたちが永遠の家族について証すると、彼女はそれを聞いて希望を感じました。ナタリアも同じように希望を持てるよ、と姉に書き送りました。ナタリアの返信には、その希望を持ちたいけれど自分の信仰はそこまで強くないと思うとありました。

そこで、わたしは手紙を書き、信じるための助けを祈り求めるようにナタリアに勧めました。また、数行の短い文章を宣教師あてに英語で書くようにという促しも感じました。ナタリアはスペイン語しか分からないので、宣教師を探して翻訳してもらうように勧めました。わたしは宣教師なら英語が分かるだろうと思ったのです。

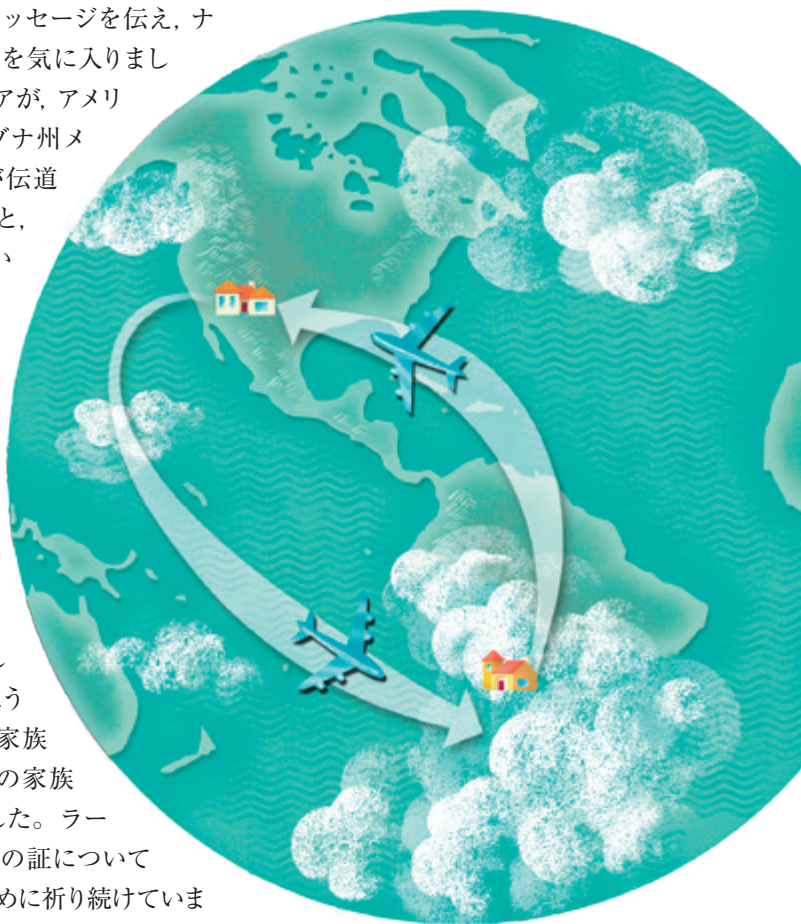
間もなくして、ナタリアから電子メールが届きました。宣教師を見つけて、手紙を翻訳してもらったというのです。宣教師は声に出さずに手紙を読むとほほえんだそうです。何と書いてあるのかとナタリアが尋ねると、「このことについてお話ししましょう」と彼らは言

いました。わたしが書いたのは、ナタリアが娘の死を乗り越えられずにいること、そして救いの計画について彼女に教えてほしいということでした。

宣教師は短いメッセージを伝え、ナタリアはその教えを気に入りました。そしてナタリアが、アメリカ合衆国のアリゾナ州メサで弟のわたしが伝道していると伝えると、ラーソン長老という長老は、そこは自分の出身地だと言いました。

1年後、わたしはラーソン長老の家族が住んでいる地域に転勤しました。ラーソン長老がわたしの家族と親しくなったのと同じように、わたしも彼の家族と知り合い、両方の家族が祝福を受けました。ラーソン長老は、自分の証について悩んでいる弟のために祈り続けていました。わたしはその弟と「同僚交換」をして、彼の証を強める手助けをすることができました。ラーソン長老と同僚はナタリアを教え続け、彼女はその後バプテスマを受けました。主がわたしをアリゾナに、そしてラーソン長老をアルゼンチンにお遣わしになり、二人が両方の家族を強める助けができるように

してくださったことを知っています。■
フアン・マヌエル・ゴメス
(アルゼンチン、ロサリオ)



自分がアリゾナに、ラーソン長老はアルゼンチンに赴任して、両方の家族を主が祝福されるのを手伝えたことに感謝しています。



手に汗握る瞬間でしたが、
わたしは背筋を伸ばしてこう言いました。
「末日聖徒イエス・キリスト教会よ。」

信仰を表明して受けた祝福

わたしは19歳のときにバプテスマを受けました。家族や友達
の多くは、教会に入るというわたしの
決断を受け入れてくれませんでした
が、わたしは決意を貫きました。2週
間後、わたしは大学2年生の新学期
を迎えました。キャンパスに戻ったと
き、自分の新しい信仰について心配に
なりました。

自分の宗教を擁護する勇気が持て
るだろうかと不安になり始めたので
す。わたしは孤独を覚えました。大
学で教会員に会ったことはありません
でしたし、集会所の場所はおろか、近
くにワードか支部があるかどうかさえ
も分かりませんでした。勇気を持てる
ように天の御父に祈りました。新しく
見つけた信仰を自信をもって擁護でき
るように祈りました。

数日後、わたしはある人が引っ越し

て来るのを手伝いました。ブライアン
という若い青年と出会い、友達になり
ました。ある日、ブライアンと一緒に
キャンパスの中を歩いていると、日曜
日は何をする予定かと聞かれました。
わたしは教会に行くと話しました。

「へえ、どの教会に行っているの?」
と彼は尋ねました。

手に汗握る瞬間でしたが、わたしは
背筋を伸ばしてこう言いました。「末
日聖徒イエス・キリスト教会よ。」

自分に対し「よくやった」と思いま
した。しかし同時に、ブライアンの反
応も気になりました。すると次の瞬
間、宣教師を見かけました。ブライ
アンが何か言う前に、わたしはちょっ
と待っていてと言い、宣教師のもとに駆
け寄りました。彼らはわたしと出会っ
たことを喜んでくれ、次の日教会に行
くために必要な詳しい情報を全部教

えてくれました。

わたしはブライアンのところへ戻っ
て事情を説明しました。そして、教会
について少し彼に説明し、初めとほぼ
変わらない雰囲気歩き続けました。
唯一の違いは、わたしの足取りが軽や
かになっていたことでした。それに加
えて、御霊しかもたらせない温かさ
と平安も感じていました。自分が一人
ぼっちで、教会の場所が分からないこ
とが不安でしたが、あのときちょうど
あの場所に宣教師が通りがかったのは、
自分の信仰を表明したわたしへの、天
の御父からの祝福だと信じています。

あれから10年以上たちましたが、
それ以来、いつも恐れずに「わたしは
末日聖徒イエス・キリスト教会の会員
です」と言うことができます。■

クリスティン・マッケルデリー
(アメリカ合衆国、マサチューセッツ州)

主の助けで乗り越えた2度にわたる脳の手術

背中が痛くて理学療法を受けている最中に、体の左側に力が入らず、感覚がないことに気がつきました。症状を理学療法士に伝えると、心配だと言われ、医師に診てもらおうように勧められました。

MRI診断によると、脳が頭蓋骨の下の方まで腫れ、首のところで髄液の流れを妨げていたことが分かりました。これが長く続く激しい頭痛や痛みの原因となっていたのです。唯一の選択肢は手術でした。しかし手術の後も絶え間ない痛みが残りました。

6か月後にさらに検査してもらくと、せき止められた髄液が増えているというのです。再度つらい手術を受けることに恐怖を覚えました。夫とわたしは複数の医師からセカンドオピニオンをもらい、脳の一部を切除すれば症状は改善すると確信する医師に手

術してもらうことにしました。

2度目の脳の手術から回復するまでは、人生で最もつらい時期でした。必死の思いで御霊による慰めを求めました。説教や賛美歌を聴き、絶えず祈り、何度も神権の祝福を受けました。

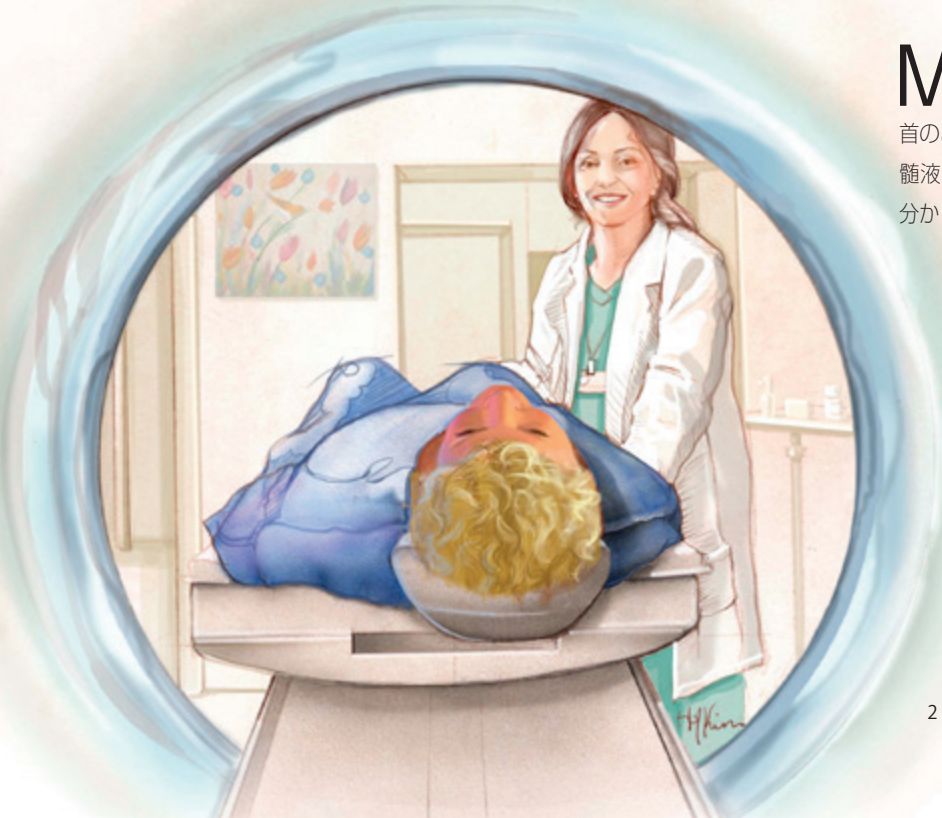
回復までのつらい期間、わたしの祈りや、多くの人がわたしのためにささげてくれた祈りを、天の御父は聞いてくださいました。必要なときに助けてくれる人を遣わしてくださったのです。ワードにいる看護師が薬の管理方法を教えてくれました。わたしが脱水症に陥ったことに気づいて、おばとおじが病院に連れて行ってくれました。初等協会の男の子は、わたしの家族を助けたいと、息子のために自分のおもちゃを家の前に置いて行ってくれました。この経験やほかの多くの経験を通して、救い主が支えてくださってい

ることや、証が日々強まっていくことを実感できました。とてもつらい経験から、すばらしい、神聖な経験が得られたのです。

2度目の手術は成功したものの不快感はまだ、慢性の痛みを伴う生活に慣れなくてはなりません。天の御父には何か目的がおりなのだと信じるしかありません。困難にあってもわたしを絶えず強めてくださるという天の御父の約束に希望を見いだしています。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであらう。」(教義と聖約 84:88) ■

プリン・ブッカー (アメリカ合衆国, アイダホ州)

MRI診断によると、痛みの原因は首のところにたまっていた髄液によるものだと分かりました。





七十人
マイケル・ジョン・
U・テー長老

物事の兼ね合いをうまく 取りながら堪え忍ぶ

わたしは最近、自分の子供たちや姪たち、また一人の若い友人と話しました。現代のヤングアダルトが感じている疑問や問題、もどかしさ、感動について知るためです。そのときに聞いたことについて深く考えて祈り、幾つかの項目にまとめたので、皆さんの疑問や問題の答えを見いだすのに役立てば幸いです。

聖霊に耳を傾ける

皆さんの中には時折そう感じない人がいるかもしれませんが、天の御父は確かにわたしたちの祈りに御父の方法でこたえてくださると、わたしは断言します。次の聖句についてよく考えてみてください。

「すべて求める者は与えられ、捜す者は見だし、たたく者には開かれるからである。」(3 ニーファイ 14:8)

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず、惜しみなくすべての人に与え

る神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」(ヤコブの手紙 1:5)

「見よ、あなたに降ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。」(教義と聖約 8:2)

では、答えや啓示は、どのようにして受けるのでしょうか。それが聖霊であって、ただの自分の考えではないということは、どうすれば分かるのでしょうか。その規範となるものを、わたしのこれまでの経験から二つ話しましょう。

テー姉妹としばらく付き合った後、わたしは、彼女と永遠に一緒にいたいと強く思うようになりました。当然のことながら、そのために熱心に祈り、断食しました。しかし、わたしの気持ちには特に何の変化も起こりませんでした。胸の内が燃えるような感じはなかったのです。それでも、自分の決意については良い気持ちを感じていたため、そのまま待ちました。テー姉

**聖霊の促しに従い、
悪を選ばず善を選び、
ほかの物事とうまく兼ね合いを
取りながら自分の責任を
果たすことによって、
「最後まで楽しむ」
ことができることを、
わたしは証します。**

妹も同じ答えを受けていました。そんなわけで、わたしたちは今こうして夫婦となっています。この経験以来、わたしは似たような方法で結論にたどりついたことが何度もあります(教義と聖約 6:22-23 参照)。

この経験を、新しいステーク会長を召すという、わたしが十二使徒定員会から現在受けている割り当てを果た



す際に経験することと比べてみましょう。わたしは祈りと断食の精神でこの割り当てを果たし、だれが召されるべきかをはっきりと感じるという祝福を受けてきました。このはっきりとした感覚は、面接の前や面接のさなか、または、すべての面接が終わった後で訪れます。わたしは必ず、胸の内が燃えるような感じがします。それで分かったのですが、これが、このような割り当てを果たす際に聖霊が導いてくださる方法なのです。

わたしへの聖霊の働きかけ方がこのように違うのは、なぜなのでしょう。わたしには分かりません。大切なのは、このような形で個人の啓示を受けるということが分かったことです。わたしは次の勧告に慰めを感じ、確信を持っています。「あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」(教義と聖約 112:10)

悪を選ばず善を選ぶ

善と悪の区別はだんだんと難しくなってきたらと考える人もいます。グレーゾーンが増えてきているようなのです。狭い視野からだけ見ていると、今の時代に流布している間違っただ主張の多くがあたかも正しいことのように思えてしまいます。しかし、古いごみを真新しい紙で包装して独創的な宣伝で再登場させたところで、ごみであることに変わりはありません。

善と悪の識別を複雑な作業にする必要はありません。わたしたちには、

聖霊の賜物を受ける前にさえ、キリストの光という祝福があります。

「見よ、善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる。

しかし、悪を行うように、キリストを信じないように、キリストを否定するように、神に仕えないようにと人に説き勧めるものは何であろうと、それは悪魔から出ていることをあなたがたは完全に理解してわきまえることができる。悪魔はこのように働くからである。悪魔はだれにも善を行うように説き勧めない。」(モロナイ 7:16-17)

現代の最も大きな試しの一つは、生ける預言者を支持するかどうかです。ほとんどの教会員はこう言うでしょう。「なあんだ、簡単じゃあないですか。それならできていますよ。ほら、このとおりです。」

しかし、生ける預言者を支持しているはずの人が今日流布している主張をどう受け止めているかを見ると、がく然としてしまいます。教会員の中には、周囲の雰囲気によって、生ける預言者がいることなど知らないかのような態度を執ったり、そのような意見を言ったりする人がいるのです。

うまく兼ね合いを取る方法を見いだす

なすべきことがたくさんありすぎて、どこから手をつけたらよいか分からないと感じてはいませんか。考えてみてください。そんな状態では、事態は悪くなる一方です。そこで、質問です。あなたはどのように物事の兼ね合いを取っていますか。

霊が永遠の存在であることと、自分が神の息子または娘であることを、自分の指針として肝に銘じてください。その真理とそれが意味するものに、自分の精力を注ぐのです。ほかのすべてのものは、あなたの生活から消えていくか、または燃るべきところに落ち着くようになるでしょう。¹ 次の二つの聖句を、指針となる原則にすることができます。

「まず神の王国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて添えて与えられるであろう。」(3 ニーフай 13:33)

「むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。」



あなたの宝のある所には、心もあるからである。」(マタイ6:20-21)

信じてもらえないかもしれませんが、わたしも、かつては皆さんと同じでした。フルタイムで働いて夜には学校に行き、授業が終わるとアルバイトに出かけて未明まで働いていた時期があるのです。テー姉妹と二人で幼い子供たちを育てていたころのことです。週の何日かは2、3時間しか寝ないという生活を、2か月続けました。そして何よりも、わたしはワードのピシヨップリックで奉仕していたのです。

それは、わたしの人生で最高に実りある時期の一つでした。その時期ほど1日の24時間を有効活用していた時期はなかったと思います。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910-2008年)は、わたしたちは家族と雇用主、主、自分自身に対して責任があると言っています。

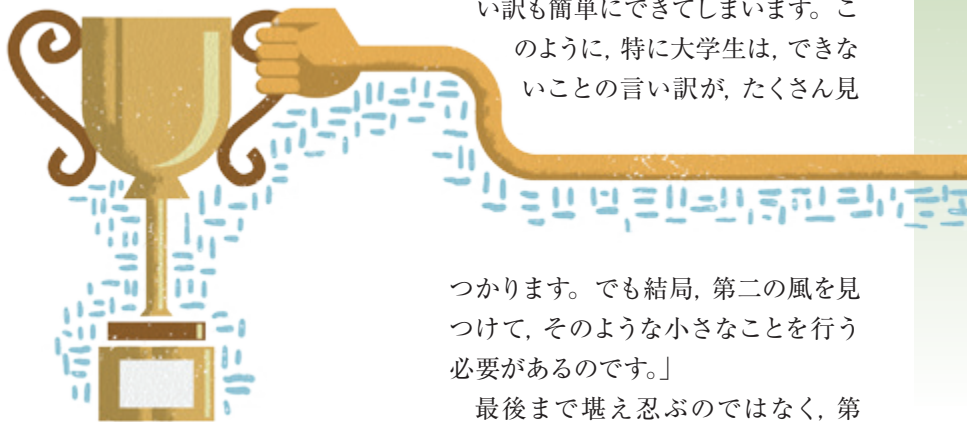
どう兼ね合いを付けながらこれらの責任を果たしていけばよいのでしょうか。「難しいことだとは思いません」とヒンクレー大管長は言います。「わたしはこの教会で、様々な責任を受けて奉仕してきました。わたしが5人の子供の父親であって様々な責任で奉仕していたころ、子供たちは幼く育ちざかりでした。……わたしたちは人生を楽しみました。家庭の夕べを行いました。といっても、教会から期待されていたことをしただけですが。」²

最後まで楽しむ

最後まで堪え忍ぶとは、福音のチェックリストに全部チェックマークを

入れて、「これでよし。さあ、後はこの状態を維持するだけだ」と言うことではありません。そうではなく、学び続け、成長し続けることなのです。イエス・キリストの福音では、絶えず悔い改めて変わり続けることが求められます。公園の散歩ではなく、坂道を登ることなのです。

ベニヤミン王はこう言っています。「これらのことはすべて、賢明に秩序正しく行うようにしなさい。人が自分の



力以上に速く走ることは要求されてはいないからである。」(モーサヤ4:27)

末日聖徒の中には、さらに努力しようという気持ちや最善を尽くしようという気持ちがないことを正当化するためにこの聖句を使う人もいます。問題は、その人たちがこの聖句の前半しか見ていないことです。

後半はこうです。「賞を得るために勤勉に励むのは必要なことである。したがって、何事も秩序正しく行うようにしなさい。」前半と後半が合わさって、物事を賢明に秩序正しく行うことのほんとうの意味が明らかになります。

若いスポーツ選手である友人が、「第二の風」という現象があると教えてくれました。疲れているときでも継続するための新たな力が湧いてくるのを感じることです。

「第二の風」は人生のほかの側面にもあると、その友人は言います。「大学生ですから、夜遅く帰宅して疲れているので祈れないとか聖文を読めないとかいう言い訳は非常に簡単にできます。神殿に度々行けないことの言い訳も簡単にできてしまいます。このように、特に大学生は、できないことの言い訳が、たくさん見

つかります。でも結局、第二の風を見つけて、そのような小さなことを行う必要があるのです。」

最後まで堪え忍ぶのではなく、第二の風、つまり霊的な風を見つけて、最後まで楽しむようにするとよいでしょう。聖霊の促しに従い、悪を選ばず善を選び、ほかの物事とうまく兼ね合いを取りながら自分の責任を果たすことによって、それができることを、わたしは証します。■

2015年6月9日、ブリガム・ヤング大学アイダホ校のディボーションで行われた説教「These Are Your Days」(「この時代はあなたの時代です」)から。英語の全文は、web.byui.edu/devotionalsand speeches からご覧いただけます。

注

1. エズラ・タフト・ベンソン「偉大な戒め——主を愛する」『聖徒の道』1988年6月号、4参照
2. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997), 33.

自分と神に 正直になる

フェイス・スザリン・ブラックハースト

伝道が半分過ぎたころ、同僚とわたしはワード伝道主任とうまくやっていくことができなくて困っていました。様々な面で意見が合わなかったのが、わたしたちはどうしたらよいかビショップに相談することにしました。内心、ビショップが伝道主任と話してくれて、問題を解決してくれることを願っていました。

ところが、ビショップはわたしが傲慢で人に対してあまりにも批判的になっていると言いました。わたしは誤解されていると憤慨しながらアパートに帰りました。どうしてビショップはあんなことをわたしに言ったのでしょうか。福音を伝えるためにわたしたちが苦勞していることを、彼は何も気にかけていないのでしょうか。

わたしは歩きながら、自分の気持ちを同僚にぶつけていました。すると、突然ある言葉が思い浮かびました。「罪のある者は真理が胸の底まで刺し貫く……。」(1ニーファイ16:2) わたしははっとしました。その言葉が御霊から来ていることは明らかでした。

ビショップの叱責を真実だと受け入れることは、わたしのプライドが許ませんでした。しかし、聖霊の声にほんとうに反論できるでしょうか。

わたしに落ち度がありました。神がそのことを教えてくださったのです。

自分を正当化する思いを打ち消す

そのとき、自分の間違いを無視したいという強い誘惑に駆られました。「正しい進路から外れているときに、それを認めたい人はだれもいません」と十二使徒定員会のディーター・F・ワークトドルフ長老は教えています。「……その結果、自分の生活を吟味するときに、先入観と言いつい、自分に都合のいい話というフィルターを通して見て、ふさわしくない思いと行いを正当化しようとするのです。」¹

わたしの場合、自分のエリアの伝道活動を良くするために、不満に思っていることを言ったのだと思い込んでいました。そして、わたしにとって不完全に思えたためにワード伝道主任の忠実な奉仕を受け入れなかった自分が、感謝、忍耐、率直で親切な心など

**ビショップの叱責を
真実だと受け入れることは、
わたしのプライドが
許ませんでした。
しかし、聖霊の声に
ほんとうに反論できるでしょうか。**

に欠けていることが突然分かりました。御霊の促しのおかげで、わたしは自分の言動の本質が見えました。

霊的な真偽の確認

御霊からそのような直接的な叱責を受けたことはなかったですが、最良の方法でした。自分の間違いについて正直になる必要があることに気づきました。

そして、その過程で御霊が最高の助



よってそれを強さに変えるのを助けてくださいます(エテル12:27, 1ペテロ5:5参照)。

結局のところ、弱さを正直に認めること、つまりほんとうの自分を見ることは、好ましい変化を遂げる最初の一步なのです。わたしが正直であり続け、御霊の導きを求めるなら、天の御父はわたしの生活で何を変えるべきか知るのを助けてくださいます。また、イエス・キリストとその贖罪と清めの力に頼るなら、自分が進歩していることが分かるでしょう。

あの叱責の瞬間に自分の過ちを認めることは苦い経験でしたが、謙遜になり、自分と神に正直になることを選ぶとき、より幸福になり、自分を受け入れられることを知っています。様々な欠点があっても、わたしは天の御父にとって貴い価値ある存在です。そして、御父はわたしの進歩を望んでおられるのです。神の御子イエス・キリストの力と心からの悔い改めを通して、わたしは夢にも思わなかったほどすばらしい人になることができます。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

注

1. ディーター・F・ウークトドルフ「『主よ、それはわたしですか』」『リアホナ』2014年11月号、58
2. ラリー・R・ローレンス「『ほかに何が足りないのでしょうか。』」『リアホナ』2015年11月号、35
3. ディーター・F・ウークトドルフ「『主よ、それはわたしですか』」58

け手となることをじかに知ったのです。七十人のラリー・R・ローレンス長老が教会員に次のように勧めたとき、わたしに対して語っているように感じました。「謙虚に次のように主に尋ねてください。『わたしの進歩を妨げているものは何でしょうか。』……それが心からの問いであれば、答えはすぐに明確になることでしょう。それはあなただけに与えられる啓示なのです。」²わたしは、弱さについて促しを受ける

だけでなく、改善するための力があることも知りました。

弱さから強さへ

この経験から、「自分の弱さと欠点が曖昧なまま残されると、救い主の贖いの力がそれらを正して強さとすることはでき[ない]」ことを教えられました。³

しかし、自分を包み隠さず、謙遜に弱さを認めるならば、神はその恵みに

扶助協会は 退屈でしょうか

扶助協会の一員となることをとても不安に思っていたが、
みんなが歓迎してくれたので、大好きになりました。

教会機関誌
シャーロット・ラーカバル

18 歳になったとき、わたしはほんとうにうれしく感じていました。10代の若者とはそういうものではないでしょうか。もちろん、わたしはまだにきびのある高校生で、合衆国カリフォルニア州の家の手伝いをこなさなければなりませんでした。子供ではなく大人でした。まったく新しい人生のステージに立とうとしていて、そのことを楽しみにしていました。あまり楽しみではなかったことといえば、扶助協会で「年配の女性たち」と一緒にいることです。彼女たちは、子供や仕事を抱え、電気調理器を持っていて、部屋履きでパイを焼くのが好きな人たちなのでしょう。わたしはといえば、宿題と水泳大会に追われ、青いマニキュアをして、自分の部屋はなかなか掃除しません。こんなわたしが扶助協会でだれかと友達になれるでしょうか。きっと居心地が悪く、寂しくて退屈になると思っていた。そして、そんな思いの中で扶助協会へきました。

まず、扶助協会はまったく退屈ではありませんでした。笑顔や笑い声があふれていました。興味深い、心のもった言葉を伝え合いましたが、笑うことにためらいはありませんでした。次に、姉妹たちはわたしと大して違いませんでした。もちろん、年上ですが、わたしが友達とするように互いに冗談を言い合っていました。

わたしが考えていたのと同じ質問を、ほかのだれかがすることが何度もありました。その週の豊かにする集会の発表があったとき、わたしはびっくりしました。護身術を学ぶというのです。わたしも学びたいと思っていました。

扶助協会会長のラーセン姉妹が、わたしに立って自己紹介をするように言ったときにはとても緊張しましたが、それも大丈夫でした。みんな満面の笑みでわたしを見ていました。3年目のときのセミナー教師であるエドワーズ姉妹は、わたしに「良かったよ」と親指を立てて示してくれ、初等協会のころからわたしを知っているリチャーズ姉妹は、わたしが「大人になった」ことが信じられないと言いました。そして、彼女たちはほんとうに「大人になった」一人の姉妹としてわたしに接してくれました。わたしは大人の洋服を着て大人の真似をして遊ぶ子供のような気分でしたが、その場にいたほとんどの女性にとって、わたしは新しい姉妹といった感じでした。

そのとき以来、わたしはどのワードに行っても扶助協会が大好きになりました。扶助協会の部屋に行くとき、姉妹同士のきずなと居心地の良さを感じます。わたしは扶助協会の姉妹たちをできるだけ助け、彼女たちから学ぼうと努めることが大好きです。

そして、実は自分がパイを焼くのがとても得意だと分かりました。■



「わたしたちは慈しみ合い、
見守り合い、慰め合い、導きを得て、
わたしたちすべてがともに天で
座に着けるようにしなければなりません。」

預言者ジョセフ・スミスの母ルーシー・マック・スミスの言葉
（『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』25）

**扶助協会とは
どんな組織でしょうか。**

扶助協会は1842年3月17日、イリノイ州ノーブーにおいて預言者ジョセフ・スミスにより設立されました。設立当初、扶助協会には二つの目的がありました。貧しい人や困っている人を助けることと、人々をキリストのもとに導くことです。今日、世界で最も大きな女性組織の一つとして歩み続けています。姉妹たちは、日曜日や、必要に応じて別の状況でも集まります。

**扶助協会は
次のようなところです。**

- あなたを愛し、助ける女性の集まりです。
- 周りの女性を愛し、彼女たちに仕える機会があります。
- 日曜日のレッスンとほかの集会は、個人の生活で助けとなり、女性、娘、姉妹、おば、母親としての役割をよく果たす機会を提供します。

長老定員会に 初めて出席した日

わたしは若く、長老になったばかりでした。
長老定員会でわたしに何ができるでしょうか。実はたくさんできることがあったのです。



「すべての聖徒には、自分の兄弟たちに
惜しみなく与え、常に彼らを愛し、
助ける義務があります。
……父親や夫を失って
苦しんでいる人を訪れ〔ます〕。」

—ジョセフ・スミス「歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス」(2007) 426

ダリン・リュートキ

どんな様子かある程度予想していたので、長老定員会に行くのはそれほど不安ではありませんでした。それに、ワードの長老定員会にいる人たちを知っていました。友達のお父さんや、良い指導者としてわたしが日頃から尊敬している人たちでした。彼らは、わたしが物事を理解できるよう喜んで助けてくれる人たちだと知っていたので、長老定員会の一員となることは心配していませんでした。

心配だったのは、レッスンに参加することでした。まず、自分よりも多くの人生経験と知恵を持つ人たちに、自分から何か提案することなどとうてい考えられませんでした。

異なっても同じ

長老定員会は、祭司定員会とはまったく異なります。同年代の若者の集まりではなく、急に大人と一緒にになります。最初の数回、わたしは何も発言しませんでした。自分が若すぎて、発言するほどの知識がないのではないかと心配していました。

しかし参加するにつれ、だんだん慣れてきて、何歳であろうとだれでも何かしら発言できると気づくようになりました。みんなに福音について異なる経験があり、様々な原則について、理解のレベルはそれぞれ異なっています。

わたしにも分かち合えることがあった

ある日、救い主の贖いについて話しているとき、わたしは手を挙げまし

た。御自身の贖いによって、イエス・キリストはわたしたちを自由にしてくださるだけでなく、主と神に近づくのをどのように助けてくださるか話しました。天の御父とイエス・キリストと自分との関係、そして贖いに対する自分の理解が深まるにつれ、それがどのように強められたかについて話しました。クラスの後、ある男性がわたしのところへやって来て、わたしの発言に感謝を示してくれました。彼はわたしのような見方をしたことがなかったそうで、その意見がほんとうに良かったと言ってくれました。

ホームティーチングはすばらしい

長老定員会では、教師から学ぶだけでなく、御霊や定員会のほかの会員からも学びます。教えられている事柄について、様々な観点から見ることでさらに洞察を得られます。そのようにして、より良い主の弟子となれるのです。例えば、わたしは長老になってから、ホームティーチングが大好きになりました。数か月後宣教師となったときには、ホームティーチングと同じように人々を訪問して福音のメッセージを分かち合うようになるので、以前よりも真剣な気持ちで臨むようになったのだと思います。ただそこに座って同僚にすべてを任せていないで、わたしも訪問の準備をするようになりました。そして発言するようにしています。これは自分の伝道のよい準備であると分かっていますが、それだけでなくホームティーチングをさらに意義深いものにしてくれました。今では、ワードの

長老定員会は次のような所です。

- 日曜日のレッスンでは、定員会の会員の洞察や意見がイエス・キリストとその福音についてのあなたの証を強め、夫、父親、神権指導者としての将来の役割にあなたを備えてくれます。
- 神権を使って奉仕する機会を通して、あなたの生活が祝福され、あなたと仲間の定員会会員との間のきずなが強められます。
- メルキゼデク神権者として新しい責任を学ぶときに支えてくれる定員会の一員となります。

人たちやホームティーチング先の人々にさらに感謝するようになりました。

わたしにできれば、あなたにもできる

長老定員会を怖がる必要はありません。学ぶテーマについてさらに知恵が与えられると大いに期待できます。さらに良い教師、指導者、主の僕しもべになれると期待できます。それはほんとうにすばらしいことです。■

筆者はアメリカ合衆国カリフォルニア州在住です。

特別な 助け

アリー・アーネル

わたしは自分のペースで潜っていきました。1.5メートル……海流の揺れを感じます。3メートル。突然、暗くなり、呼吸が苦しくなりました。このひどく寒い、視界の悪い海は、練習したプールとはまったく違います。狭苦しくて怖くなり、わたしは素早く泳いで水面上がりました。

「どうしたんだい？」インストラクターの助手がわたしに聞きます。水中メガネの下で涙が込み上げてきました。わたしはスキューバダイビングの資格試験の真っ最中で、試験に合格するために必要な技能の一つである9メートル潜水を行っていました。助手はわたしがパニックになっているのを見て、安心させようとしてきました。彼は励ましながらも、強制しようとはせず、ある時点でこう言いました。「やらなくてもいいんだよ。」そう言われたとき、わたしは挑戦したいという自分の気持ちに気がきました。

自分にとって難しくても、それを成し遂げたい、資格を取りたいと思いました。それでわたしは恐怖をこらえ、試験に合格するために講習で残りの技能を修了しました。難しかったのですが、励まされて終えることができました。

数か月後、バルーで宣教師として働

いているとき、人々に信仰をもって生活を変えるように勧める度に、スキューバダイビングの大変な経験を思い出しました。同僚とわたしが訪問するのを特に楽しみにしていたある家族は、ルメイ家族といました。カリナとエンリケと、彼らの二人の10代の娘たちカレンとニコレは、度々わたしたちを快く迎え入れてくれ、わたしたちは彼らが大好きになりました。カリナ、カレン、ニコレはすぐに福音を受け入れて教会に入りました。

しかし、エンリケは特別な助けが必要でした。わたしたちのメッセージ

は、彼が育てられ経験してきたことと違っていたので、彼の信頼を得るまでに時間がかかりました。エンリケには様々な問題がありました。彼が悩んだ福音の中心的な側面はモルモン書でした。彼はモルモン書について聞いたことがなく、読んで理解するのは大変でした。エンリケにとってその親しみのなさが迷いとなっていました。

そのとき、エンリケは水面上に泳いで戻ったときのわたしのようなようでした。ほかのみんなが難なく潜水していった一方で、自分は恐怖で身動きが取れずにいたのです。またわたしと同様、



伝道中、福音を受け入れるためにそばにいてくれる人を必要とする求道者に会うかもしれません。

エンリケが成功を収めるために必要なのは、特別な助けでした。

この助けは様々な形で彼にもたらされました。宣教師は、彼が問題に対処して御霊を感じられるよう助けました。また、ワードの会員がフェロシップをして、父親としての役割について彼を教えてくださいました。最も大きな助けは、エンリケ自身の家族でした。

バプテスマの前から、ルメイ家族は家族の祈りと聖文研究を習慣としていました。家族はエンリケに拡大文字と音声版の聖文を手に入れ、彼が容易にモルモン書を研究できるようにしました。これらの地道な努力が大いにエンリケの助けとなりました。だれも彼にプレッシャーを与えることなく、ただ彼を支えたのでした。彼らの行動から「あなたならできると知っているわよ」という彼らの思いが伝わりました。

この助けにより、エンリケはモルモン書の力を自分で見いだすことができました。ある日、彼はモルモン書を全部聞き、それが神の言葉であると分かったと言いました。妻と娘のバプテスマの4か月後、エンリケも同じ段階を踏んでバプテスマを受けました。

エンリケは、今日に至るまでに受けた助けや忍耐に感謝していると言います。わたしは宣教師として、夫であり父親である彼が疑いを克服できる

よう助けた、ルメイ家族の愛の模範を目にしたことを祝福と感じました。また、スキューバダイビングで苦労した経験を通して、改宗の過程でエンリケが感じたことや、ほかの求道者が感じるかもしれない気持ちを少しでも理解できることに感謝しました。

伝道中に悔い改めて変わるよう人々を招くとき、すべての人々が成功するために必要なことは、特別な励ましであることを覚えておきましょう。彼らは、「大丈夫ですよ。あなたならきっ

とできる。信じていますよ」とそばで言ってくれる、経験のある、信頼できる人が必要なのかもしれません。彼らはあなたが一緒に飛び込んで、新しい習慣や技能を身につけ、資格を得られるように助けてほしいと望んでいるのかもしれません。彼らが得る資格とは、最終的には主の承認なのです。■
筆者は、アメリカ合衆国アイオワ州に住んでいます。



わたしたちのスペース



生ける預言者の言葉に 心を打たれた経験

わたしが15歳のとき、スーパーマーケットの前で二人の宣教師を見かけました。そのうちの一人が、教会に来るようにわたしを誘いました。わたしはそれほど興味がなかったので、「いつか行くかもしれません」と伝えてその場を去りました。

次の日、おばが電話をしてきて、特別なメッセージを聞きに来ないかと母を誘いました。母とわたしがおばの家に訪ねて行くと、前日に会ったその宣教師たちが座っていました。母は彼らのメッセージに興味を持ったので、わたしも一緒に聞き始めました。しかし、宣教師たちから、生ける預言者を信じているか尋ねられたとき、はっきり「いいえ」と答えました。長老の一人が、トーマス・S・モンソンの写真を見せて、モンソン大管長が預言者であることを証しました。彼らは、わたしが自分で判断するため、翌日の総大会に来るよう誘ってくれました。わたしは好奇心から行くことにしました。

次の日、わたしたちが礼拝堂に着いたとき、ちょうど開会の祈りが終わるところでした。中に入ると、スクリーンにモンソン大管長が映し出されました。彼は笑顔で、「愛する兄弟姉妹の皆さん、ようこそ……」と言いました。

モンソン大管長が口を開いたと同時に、ある強い気持ちを体中で感じ、彼が神の預言者であることが分かりました。総大会の終わりには、宣教師たちに「バプテスマを受けたいです」と伝えました。その後、わたしは伝道に出て、回復された福音の素晴らしい真理を多くの人々に教えてきました。

神は、再び地上に預言者を召すことによってわたしたちを祝福してくださったと知っています。神はわたしたちを愛してくださり、現代の預言者を通してわたしたちに語られるのです。■
マイコン・B (ブラジル, サンパウロ)

どのように預言者や使徒を支持することができますでしょうか。

1. 世の人々を教えるために、神が御自身の預言者として彼らを召されたという証を求めて祈る(エレミヤ1:5, 7参照)。
2. 彼らを愛し、彼らのために祈る。
3. 好意的に思われたい状況においても、彼らを支持する。
4. 彼らの教えや模範について学ぶ。
5. 彼らに従う。彼らの言うことを信じ、彼らの教えを実践するよう努める(教義と聖約21:4-6参照)。

福音を恥としない

寄宿学校に通っていたとき、わたしはほかの学生と寮に住んでいました。お祈りと聖典学習をよく行い、福音の原則に沿って生活しようと心がけていました。

ある日、わたしがベッドでモルモン書を学んでいることにクラスメートが気がつきました。彼女は怒りを込めて、わたしの教会が間違っていると思う事柄をすべて指摘し始めました。それから寮のほかのすべての学生にわたしの「奇妙な」信条について言いふらしました。クラスメートの中には、わたしやわたしの宗教をばかにしたり、わたしを避けたりする人もいました。とうとう、わたしはモルモン書を洋服ケースの下に隠して、クラスメートからなじられないように、聖書だけを勉強するようにしました。

わたしはローマ人への手紙第1章16節にたどり着くまで聖書の勉強を続けました。こう書いてありました。「わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にも、すべて信じる者に、救^{すくい}を得させる神の力である。」わたしは、モルモン書を隠すことによって、クラスメートに対して自分の信条を恥づかしく感じていることを示していることに気がつきました。わたしはモルモン書を取り出して、赦しを求めて天の御父に祈りました。それからクラスメートたちのところに行って、回復された福音について自分の証を述べました。すると、ほとんどの人がわたしを侮辱するのをやめて、また仲良くしてくれました。

神はわたしたちが経験する試練を理解しておられることを知っています。わたしたちが自分の信念を擁護し、「福音を恥としない」姿勢を示すときに、主は御自身の力と守りと導きを与えてくださいます。■

パメラ・O (ナイジェリア, アブジャ)



歌による奉仕

わたしが生まれて6か月のとき、初めて示したジェスチャーは「ミルク」で、その数週間後に「パンダ」という言葉を口にしたのでした。わたしは聞くことができますが、最初に学んだ言葉はアメリカの手話でした。わたしの母は手話で伝道をして、その後も学校で手話を勉強していたので、わたしにも学んでもらいたかったのです。

手話は、わたしの人生においてほんとうに大きな祝福となっています。手話によってよりたくさんの方のことを理解したり、学んだりできます。人々をつなげることもできます。わたしは自分の知っていることをマンツーマンで教えたり、学校や教会でプレゼンテーションをして教えたりするのが大好きです。また、母親と一緒に総大会やほかの教会のビデオを手話放送で見るととても楽しいです。

人生において、手話ができることによって、ほんとうに証が強められています。手話を知らなければ知り合うことのできなかった神の子供たちと出会え、ほかの人々に奉仕するためにも大変役に立っています。わたしの人生でこの手話という祝福があることやそれを通して出会い、学びを得ることができた素晴らしい人々に感謝しています。■

イスラエル・H (アメリカ合衆国, オレゴン州)



どのページも わたしたちが キリストを信じている ことを示しています

教会機関誌
リチャード・M・ロムニー

「モルモン人はクリスチャンじゃないよ。」
高校のクラスメートからのその言葉にわたしは不意を突かれました。

「もちろんクリスチャンだよ」と答えました。

彼は「じゃあ、何でモルモン書を読んでいるんだい」と言うと、返事をする機会をくれずに歩き去って行きました。

わたしはこの質問について何度も考えたことがあります。その答えは、もちろんモルモン人はクリスチャンであり、モルモン書はイエス・キリストについてのもう一つの証であるということです。わたしたちは救い主についてもっと知るために、聖書と併用して読みます。

すでにモルモン書を読んでいますし、それが真実であることを知っていました。でもクラスメートの質問によって、イエス・キリストという言葉がどれだけ使われているかを記録していく新しい方法でモルモン書を学ぶように促しを感じました。それを試してみても、ほんとうに驚きました。

モルモン書の表紙をめくったばかり

わたしのクラスメートが、モルモン人はキリストを信じていないと言ったとき、わたしはモルモン書をまったく新しい方法で読もうと決めました。

のところで、すでにタイトルページに、モルモン書が「イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されることを確信させる」ために書かれたものだ」と記されていました。

モルモン書の序文では、「モルモン書に記録されている中で最も栄光ある出来事は、主イエス・キリストが復活後間もなく、ニーファイ人の間で親しく教え導かれたことであろう」とありました。さらに、聖霊を通じてこの記

録が真実だという証を得る者は、「その同じ力によって、イエス・キリストが世の救い主であられ……ることを知るであろう」と述べられています。

次に、「三人の証人の証」を読むと、モルモン書が翻訳される基となった金版を天使が見せてくれたこと、そして「目で見て、これらのものが真実であると証するのは、父なる神と主イエス・キリストの恵みによるものであることを知っている」と書かれていました。

次に、「預言者ジョセフ・スミスの証」では、天使モロナイの訪れと、そ



自分のための探求

モルモン書を研究するにつれて、イエス・キリストについて学ぶことが容易になります。読みながらメモを取ったり、イエス・キリストについてのモルモン書の多くの出典のリストが載っている聖典の手引きなどの研究のための資料を使ったりすることができます。モルモン書はほんとうにイエス・キリストについてのもう一つの証です。



の天使がモルモン書には「救い主が〔アメリカ大陸に住んでいた〕その昔の住民に述べられたままに完全な永遠の福音」が載っていると告げたことが書いてあります。

まだニーファイ第一書にまで達していないのに、すでにたくさん見つけました。

わたしの探求は続きました。ニーファイ第一書を読んで、リーハイがメシヤの来臨について知っていたことが分かりました（1ニーファイ1：19参照）。「世の罪を取り除〔かれる〕」贖い主についてのリーハイの預言を読みました（1ニーファイ10：10。4－10節も参照）。イエス・キリストの降誕、キリストの教導の業、死、復活、そしてキリストが古代アメリカ大陸を将来訪れられるということについてのニーファイの記述についても読みました（1ニーファイ10－12章参照）。

モルモン書が、「神の小羊が永遠の御父の御子であって、世の救い主であること、すべての人はこの救い主のみもとに来なければなら〔ない〕」（1ニーファイ13：40）という、聖書にある記録が真実であることを立証するという預言についても読みました。また、「すべての国民、部族、国語の民、民族は、もしも悔い改めるならば、イス

ラエルの聖者によって安全に暮らせるでしょう」（1ニーファイ22：28）というニーファイの証についても読みました。


初日を終えて、わたしは68ページまでたどり着きました。まだモルモン書の初めの一つの書を終えただけなのに、何と力強い証をすでに受けたことでしょうか。

それから数週間にわたる探求において、ページをめくる度に、イエス・キリストの証やキリストが預言者に御姿を現されたという示現、古代アメリカ大陸におけるキリストの教導の業について詳細な記録を見つけました。最後には、モロナイのイエス・キリストについての力強い証（モロナイ9章参照）や、「〔モルモン書が〕真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように」（モロナイ10：4、強調付加）というモロナイの勧め、そして最後のページでは「キリストのもと

に来なさい」（モロナイ10：30、32）という優しいながらも力強い招きを読んで、完読しました。

それによって、モルモン書はわたしのクラスメートの言葉が誤っていることを完全に証明していることが分かりました。イエス・キリストを信じている人がクリスチャンであるのなら、モルモン書はページをめくる度に「わたしたちはキリストを信じています」と述べているのです。

程なくして、わたしはその友人にまた会いました。わたしは自分の経験について彼に伝え、モルモン書を読んでみるように勧めました。彼は丁寧にそれを断りましたが、わたしがイエス・キリストを救い主として受け入れていることを喜んでくれました。その話し合いの後では、「もちろんわたしたちはクリスチャンです」とわたしが言う意味を彼はもっとよく理解できたことでしょう。■



「いつも自分をほかの人、特に完全な生活をしているように見える人と比べてしまいます。もっと自信を持つにはどうすればよいのでしょうか。」

「わたしたちはとても多くの時間とエネルギーを使って、人と自分を……比べてしまいます。そうしているうちに、かなうはずのない望みを抱くようになります。……

……神はわたしたちが完全になるように望んでおられます。弟子の道を歩んで行けば、いつか完全になります。今完全でなくてもいいのです。努力を続けてください、でも自分につらく当たるのはやめましょう。」

十二使徒定員会
ディーター・F・ウークトドルフ長老
「忘れな草」
2011年10月総大会



自分の賜物を 知るために祈る

あなたには、天の御父から直接与えられたたくさんの才能や霊的な賜物があります。あなたにしかできない方法でほかの人々の生活を祝福できるのです。これは天の御父の計画です。どのような賜物を与えられているかを知るために祈ってください。そしてもっと導きが必要なら、親しい人あなたにどのような賜物を持っているかを聞いてみてください。御霊に耳を傾け、自分に与えられた才能や神聖な特質を見つけて伸ばそうとすることにより、以前には決して持つことのできなかった自信を得ることができます。

エミー・P, 17歳
(アメリカ合衆国, ケンタッキー州)



相手をもっと 知るように努める

自分をほかの誰かと比べてしまうときはいつも、その人をもう少しよく知るようにしています。「あこがれの人」について知るようになると、この地上にいる人の中で、試練に直面しない人はいないという現実がはっきりと分かります。その人と話をすればするほど、その人を友として見始め、欠点のない人とは思わなくなります。

アメリカ・C, 14歳
(アメリカ合衆国, アイダホ州)



大切なのは天の御父の評価だけです

2016年10月の総大会の説教『わたしは十分に善良でしょうか』『わたしにできるでしょうか』で、七十人のJ・デビン・コーニッシュ長老はこう言っています。

「唯一の重要な評価は、天の御父がわたしたちについて考えておられることです。主があなたをどう思われているのか、心から尋ねてください。神はわたしたちを愛し、誤りを正されますが、落胆させることは決してなさいません。」周りの善良な人たちのようにはとてもなれないと思うとき、わたしは天の御父に目を向け、自分が愛にあふれる神の娘であることを思い出すようにしています。わたしが自分の可能性を十分に出し切れるように、また神を求めるなら、神がなれると知っておられる自分になれるように、神は喜んで助けてくださいます。

アマンダ・M, 19歳(ブラジル, パラナ州)

自信を求めて祈る

わたしは自分よりはるかに優れていると思う人と自分をよく比較したものです。特に、経済的にもっと安定している人に対してそうでした。天の御父は、祈るといつも自信を与えてくださいました。取り組む課題が何であれ、神がわたしを助けてくださることを知っています。それは、義務を果たすように神が求められるときには、必ず成し遂げる方法を備えてくださるからです(1ニーファイ3:7; 17:3 参照)。

ジョシュア・O, 19歳(ナイジェリア, ラゴス)

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。



識別の賜物とは何でしょうか

聖典には「霊を見わける力」あるいは「霊の識別」は御霊の賜物の一つであると書かれています(1コリント12:10; 教義と聖約46:23)。それは、「御霊の力によって理解すること、知ること」を意味しています。「この賜物には、人の本来の姿や、霊的な現れの源や意味を理解することも含まれ」ます(『聖句ガイド』「識別の賜物」; scriptures.lds.org)

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、識別の賜物は次のようなことについてわたしたちを助けてくれると教えています。(1)「他人の隠れた過ちや悪を見抜く」、(2)「わたしたち自身の隠れた過ちや悪を見抜く」、(3)「ほかの人の隠れた善を見だし、明らかにする」、(4)「わたしたち自身の隠れた善を見だし、明らかにする」(『観察が鋭い』『リアホナ』2006年12月号, 19)。

あなたはどう思いますか

「特に教会やセミナーで、電子機器に気を取られないようにするにはどうしたらよいでしょうか。」

あなたの意見と、希望する場合は高解像度の写真を、2018年7月15日必着で [liahona.lds.org](mailto:liahona@ldschurch.org) からお送りください(「投稿する」をクリックしてください)。電子メールの場合は liahona@ldschurch.org までお送りください。

掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

自分の賜物を

ジャスティナ・リヒナー

たれもが口をそろえていつもこう言っているような気がします。「もしあなたが、自分がどれほど素晴らしいか知っていたらなあ。」ほんとうのところ、人は時に、自分がどれほど素晴らしいか分からないものなのです。自分がいちばん頭が良く、いちばん人柄がよくて、いちばん格好良く、いちばん面白く、最も才能のある人だと感じないと、自信をなくしてしまうようです。

でも、考えてみてください。わたしたちは皆、天の御父の息子、娘です。だからこそ、天の御父は、わたしたちが神聖な可能性を実現できるように人とは違う賜物や才能を与えてくださっているのです。これらの賜物を見いだすとき、わたしたちは自分が神の子供という神聖で価値のある存在であることを思い起こして神に近づくことができるだけでなく、ほかの人もそうするよう助けることができます。

自分の賜物を見いだす

自分の持っている、あまり目立たない賜物を見いだすのに役立つ9つのアイデアを紹介しましょう。

1. 教えてくれるよう人に頼む。時々わたしたちは、人から見ると分かることが、自分では分からないことがあります。友人、親戚、教会の指導者などに頼んで、あなたの賜物や才能だと思ふことを書いて渡してもらいましょう。

2. 逆境の中で賜物を見いだす。困難な状況にあるとき、わたしたちは、自分の中の最良の資質を發揮するか、最悪の資質を發揮するかを選ぶことができます。困難なときこそ、自分の

中の最も良い資質と賜物を見だし、それらを使うことに焦点を当てましょう。

3. 自分の賜物を認識できるように助けを求めて祈る。天の御父はわたしたちの神聖な可能性を御存じです。自分の中にそれを見いだすのが難しいとき、御父が助けてくださいます。自分の賜物を認識できるように助けを求めて祈ることができます。

4. 新しいことに挑戦するのを恐れない。やったことがないことをするのは心配だという理由で、すでに自分にあることが分かっている賜物を伸ばすだけでよいのでしょうか。新しいことに挑戦し、未知の賜物を見いだす時は今です。

5. 神の言葉を探求する。天の御父は、わたしたちが聖文を手がかりにして自分の賜物を見だし伸ばせるよう助けてくださいます。通常は行動するようにとこの勧めを通してです。次の聖句を例に取ってみましょう。「互いに言い争うのをやめなさい。互いに悪口を言い合うのをやめなさい。」(教義と聖約 136:23) この勧めから、どのような賜物を伸ばすことができるでしょうか。優しい言葉で話す賜物、相手を落ち着かせる賜物、自制の賜物などです。ほんの一節に、こんなにあるのです！ 聖文を読み、御霊の促しに耳を傾けることが、自分の賜物を見いだす助けになります。

6. 自分以外に目を向ける。時々、最も良い資質は、自分のことに集中せずに、ほかの人に働きかけて助けることに集中しているときに表れます。そうするとき、自分にはキリストのような賜物がたくさんあることが分かるでしょう。

7. 尊敬する人について考える。あなたが模範とする人はだれですか。模範とする人が持つ賜物をすべて挙げてみましょう。自分にはない賜物に重点を置くのではなく、あなたにもある賜物を見つけて喜びましょう。

見いだす



見いだしたいと望むこと

「天の御父が多くの賜物と才能をわたしたちに授けたいと願っておられることを知っています。しかし、それらには『わたしたちがそれを求めるという条件が付されています。祝福〔を受ける〕には、わたしたちによる動きや努力が必要なので〔す。〕』(Bible Dictionary, 'Prayer')」

七十人

マービン・B・アーノルド長老

「わたしはどこにいるのか。盡的な賜物と才能を見つけて伸ばす方法」

「リアホナ」2014年12月号, 61 参照

8. 家族について考える。あなたにある賜物で、あなたのきょうだい、両親、祖父母にもあるものは何ですか。さらに進みましょう！ 家族歴史を調べ、逸話を探し出し、あなたと家族に共通の賜物をもっと見つけましょう。

9. 祝福師の祝福を受けるか、祝福文を読む。祝福文の中に、あなたが持っている、または伸ばすべき賜物について述べられているかもしれません。ほかの新しい賜物や才能を見いだすことにもつながるでしょう。

キリストによって完全になる

自分が神の子供として価値のある存在であると知るために、すべてに一番である必要はありません。わたしたちはただ、自分の賜物や才能を見いだし伸ばすことに心を尽くす必要があります。そうすることで、イエス・キリストの贖罪を通してキリストによって完全になることができます (モロナイ 10:32 参照)。■

筆者はドイツのラインラント・パラティネット在住です。



人が賜物を見いだせるよう助ける

ほかの人が自分では分からないことが、わたしたちにはよく分かることがあります。今週、友人または家族にそれらを教えてあげましょう。ほかの人の持つ賜物を見いだすために役立つ、次の質問について考えてみましょう。

1. 彼らがしてくれたことであなたの助けになったことは何か。
2. 彼らのどのようなところが好きか。
3. 彼らの得意なことは何か。
4. 彼らがもっと上手になろうと努力していることは何か。

深く考える

靈的な

光

は

神のすべての創造物を
照らし続けています。

十二使徒定員会

ディーター・F・ワークトドルフ長老
「天の光をもたらす者」2017年10月総大会

光はいつも そこにあります

十二使徒定員会
ディーター・F・ウークトドルフ長老

わたしは、地球という惑星の周りを機長として飛んでいるときに、神の創造物の美しさと完全さにいつも魅了されました。特に、地球と太陽との関係に引き付けられました。それは、暗闇と光のあり方について深い教訓を与えてくれます。

周知のとおり、24時間の間に夜は昼に変わり、昼は夜に変わります。

では、夜とは何でしょうか？

夜は、影にすぎません。

夜が最も深いときでさえ、太陽は光を放つのをやめず、いつもと同じように明るく輝き続けます。しかし、地球の半分は暗闇の中にあります。

光がないと暗闇が生まれます。

夜の暗闇が訪れても、わたしたちは太陽が消えたと落胆したり心配したりはしません。太陽がなくなった、死んでしまったなどとも思いません。自分は影の中にいて、地球は自転し続け、やがて太陽の光がまた自分に届くことを理解しています。

暗闇は、光がないことの現れではありません。ほとんどの場合、光を受けるのに適した場所にいないだけなのです。

同様に、霊的な光はすべての神の創造物を照らし続けています。

天の光とイエス・キリストの福音の真理を見るのに適した場所にいられるかどうかは自分自身にかかっています。夜が訪れて世界が暗く見えるときにも、キリストの光の中を歩くことを選び、戒めを守り、主の實在と偉大さについて勇敢に証をすることができます。

謙遜な祈りの中で神に心を向ける度に、主の光を身に受けます。聖典の中に主の言葉と御心を見いだそうとする度に、光は明るく輝きます。助けを必要としている人に気づき、自分の快適さを犠牲にして愛の手を差し伸べる度に、光は広がり、増します。誘惑を拒み、清さを選ぶ度に、また赦しを求め、赦し、勇敢に真理を証する度に、光は闇を追い払い、光と真理を求めている人々を引き付けます。■

2017年10月の総大会における説教から。当時ウークトドルフ長老は大管長会第二顧問を務めていました。



1940年11月6日、
チェコスロバキアの
オストラバに生まれる。



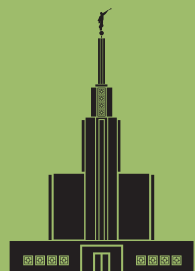
1947年、ドイツのツピッカウで
教会に入る。

2004年10月2日、
十二使徒定員会の
会員として支持される。



子供のころ、
長老と家族は
難民となり、
チェコスロバキア
からドイツに、
その後
東ドイツから
西ドイツに
逃れた。

1962年、
スイス・
ベルン神殿で
ハリエット・レイヒ
姉妹と結婚。



ルフトハンザ
ドイツ航空で
パイロットとして
働いた。
29歳で機長になる。

ひかり
光をかがやかせる

愛をしめす

こんにちは。
わたしの名前はラブです。

わたしは家族に
愛をしめすことで、
光をかがやかせます。

わたしのこと

わたしはナイジェリアに住
んでいます。アフリカの国
です。両親やきょうだいと
くらしています。好きな曲
は、「世界中の子供たち」
です。好きな聖句は、第一
ニーファイ第3章7節です。

神殿に近くある

わたしたちは、ナイジェリア・ア
バ神殿からとても近い所に住
んでいます。歩いて5分しか
かかりません。神殿に行くとき、
とてもうれしい気持ちになり
ます。神殿に入り、バプテスマ
を受ける日のために、そなえ
ています。



最高の居場所

月曜日になると、わたしは弟たちに今日は家庭の夕べだと思わせるように助けています。お父さんが料理してくれて、みんなでダンスをするのが好きです。家は最高の居場所です。



弟たちを助ける

毎朝、わたしは家族の集いをするために弟たちを起こします。わたしたちは賛美歌を歌って、聖文を研究して、ひざまずいて一緒にいります。それから、弟たちを助けて学校に行くじゅんぴをさせます。きょうだいを愛して助けることは、天のお父様に対する自分のぎむだと感じています。

働くことと遊ぶこと

放課後、お母さんを手伝って家の中の仕事をします。弟の学校の宿題も手伝います。遊ぶ時間はあまりないけれど、自転車に乗ったり、たこを作ったりするのが好きです。家族に愛をしめすとき、天のお父様の愛を感じます。



どのようにかがやくことができますか

- 弟や妹に本を読んであげる。
- お母さんやお父さんに、何か手伝えるかたずねる。
- 家族に、家族のいのりをするように思い出してもらう。

星を送ってください!

イエスはわたしたちに、「光を人々の前にかがやか(せなさい)」と言われました(マタイ 5:16)。あなたは、どのように光をかがやかせますか。あなたの経験を書いた星の写真と、あなたの写真と、お父さんやお母さんのきよか書を liahona@ldschurch.org に電子メールで送ってください。



「神の言葉よく聞いて、みんなの光になりましょう」(「よく聞いて」『子供の歌集』71)

アントンは、コンピューターゲームの画面が、レベル6に切りかわるのをじっと見つめました。もう100万回目のように思えました。深く息をすいこむと、カラフルなとうを飛んだり、ほのおのトンネルを通りぬけたりしながら、迷路を進み始めました。ゴールに近づくにつれて、もっと早く足をふみ鳴らしました。

「アントン？」お母さんの声がありました。何か助けが必要な様子です。

「え～、後にしてくれないかなあ」と思いました。もう一つのとうを飛びこえて、もう一つのトンネルを深く通りぬけると、アントンは画面から視線を動かさずに、「何？」と聞きました。

「フェリックスがパジャマに着替えるのを助けて、お話を読んであげてもらえないかしら？ お母さん、台所を片付け

なきゃいけないのよ。」

「うん……。」あと少しでクリアです！最後のとうの通路のカーブを通りぬけ、ほのおをもう一つ飛びこえ、歯をガチガチ言わせるモンスターの横を通りすぎて、やりました！ゴールです！

ゲームは、レベル7になりました。もっとむずかしそうに見えますが、アントンはもう待ちきれません。このレベルに到達するまで、すごがんばってきたのです。アントンは一時停止ボタンをおすと、弟のフェリックスをだっこしているお母さんを見上げました。「あと2、3分だけやってもいい？ ちょうどレベル7まで来たんだよ！」

「ほんとうにあなたの助けが必要なのよ」とお母さんが言いました。「フェリックスの世話をしてからだったら、もう1レベルやってもいいわよ。」

フェリックスがニッコリして、「おねがいちまちゅ」と、小さな2才児の声で言いました。

フェリックスのねる時間

ハイジ・ポールマン

ほんとうにあったお話をもとに書かれました



アントンはゲーム画面を見て、ため息をつきながら言いました。「分かったよ。」とにかく急いで、ゲームにもどれるようにしようと思いました。

フェリックスをだっこすると、階段を上がって自分たちの部屋に行きました。

「ぼくの大好きな弟はどーこだ？」と言いながら、フェリックスのやわらかいおなかをつきました。体をよじらせて笑うフェリックスのおなかに息をふきかけて、アントンはにっこりしました。

アントンは、フェリックスに大好きなきょうりゅうがらのパジャマを着せました。それからフェリックスをベッドにねかせると、ドアの方に歩き始めました。お母さんからはお話も読んで聞かせるように言われましたが、大事な仕事は終わったからいいと思っています。ねるまでに、もう２レベルくらい上げられるかなと思っています。



そのとき、だれかがシャツを引っばるのを感じました。下を向くと、ベッドからぬけ出して来たフェリックスがいました。

「クマは？」フェリックスはそう言うと、本の入ったかごのところに走って行き、白クマの絵のついた本を持って来ました。

「ああ、フェリックス。ぼく、やらなきゃいけないことがあるんだよ。」アントンがそう言うと、フェリックスは、本を頭の上に持ち上げながら、大きな茶色い目でアントンを見つめました。

アントンは、思わずにっこりして、「読めないって言っても、聞いてくれないよね。分かったよ」と言いました。

アントンがフェリックスのベッドにすわると、フェリックスがひざの上に乗って来ました。アン



トンが最初のページを開いて読み始めるのを、フェリックスはアントンによりかかりながら聞いていました。フェリックスは動物を一つ一つ指さしながら、名前を言う練習をしました。「シマンマ……ファミンゴ……アサラシ。」

読み終わるとアントンは本をどじて、フェリックスを毛布でよくくるんであげました。「おやすみ、フェリックス」と言って、おでこにキスをして、立ち上がりました。

でも、ドアの方に向かって歩き始めると、また小さな声が聞こえてきました。「もぐる？」

アントンはにっこりしました。「分かったよ。少し向こうによって。少しだけ、いてあげるよ。」

アントンはまくらの上に横になりました。少なくとも今は、ほかに何もする気になれませんでした。フェリックスが大きなあくびをして目をとじるのを見てにっこりしました。今日一日で一番幸せを感じた瞬間でした。ゲームは後でもできるのですから。■
このお話を書いた人は、アメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。

トルティーヤと友達

リンゼー・スティーブンス・タナーとマリッサ・デニス

ほんとうにあったお話をもとに書かれました

「友達がほしいなら、やさしい気持ちを表そう」(Children's

Songbook, 262)

アドリアーナはたいくつでした。双子の妹のディアナと遊びたかったのに、お母さんと一緒に市場に食べ物を買って行ったのです。アドリアーナはため息をつきました。家は何か空っぽのような感じがしました。自分も一緒に行けばよかったと思いました。

アドリアーナは、近所のマルガリータの家に行ってみることにしました。マルガリータの子供たちはみんな大人になって、マルガリータは、アドリアーナにとってはおばあちゃんのようなそんざいでした。いつも一緒に楽しい時間をすごしました。

アドリアーナが外に出て、マルガリータの家へ歩いて行くと、暑い太陽が照りつけました。アドリアーナがドアの中をのぞきこんで、「マルガリータ、家にいる？」と聞くと、

「シー（スペイン語で「はい」の意味）、台所にいるわよ」という答えが返ってきました。マルガリータが下を向いて、テーブルのそばにすわっているのが見えました。アドリアーナが入って行くと、マルガリータは顔を上げて、

「こんにちは、アドリアーナ」と言いました。ちょっとにっこりしましたが、さびしそうな笑顔でした。

「どうかしたの？」とアドリアーナが聞くと、

マルガリータはため息をつきました。「あなたが心配することは何もないわ。」

「マルガリータが気分が良くなるように、自分に何かできることはあるかしら？」アドリアーナは考えました。マルガリータは、一緒に料理するとき、いつも楽しそうでした。「ト



ルティーヤを作るのを手伝うのはどう？」

「ちょうど今作ったばかりよ。」マルガリータはそう言って、ふきんを持ち上げて、いくつも重なったトルティーヤを見せてくれました。

「じゃあ、トルティーヤを食べるのを手伝うのはどう？」アドリアーナはにこっと笑いながらたずねました。

マルガリータが笑いました。

「もちろんよ。じゃあ、はさんで食べるマメを温めましょうか。」

アドリアーナはマルガリータの横に立ち、なべに入った黒い「フリホレス・レフリトス」（トルティーヤにはさんで食べるメキシコのマメ料理）をコンロでかき回しました。マメが温まると、テーブルに運んで来ました。マルガリータはトルティーヤとチーズを持って来ました。

アドリアーナは温かいトルティーヤの上に、マメを乗せて、その上にチーズを乗せました。おいしそうです！今にもかぶりつきたくなりました。でも、まず最初にしたことがあります。

「おいのりしてもいい？」アドリアーナがマルガリータに聞きました。

「もちろんいいわよ。」

アドリアーナは目をとじて、うでを組みました。「天のお父様、この食事をくださって感謝します。わたしたちが健康で強くなれるように、祝福してください。マルガリータにとって必要なものは何でも助けけてあげてください。マルガリータが友達でいてくれて感謝します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。」

アドリアーナは目を開けました。マルガリータはにっこり

しました。今度は本物の笑顔でした。二人は食べながら、学校やスポーツや本のことを話しました。アドリアーナはマルガリータと話すのが大好きでした。

食べ終わったとき、アドリアーナはマルガリータをぎゅっとだきしめました。「おやつをありがとう。すごく楽しかったわ!」

マルガリータもアドリアーナをだきしめました。「わたしのほうこそありがとう、アドリアーナ。今日のわたしには友達が必要だったの。」

アドリアーナの顔がかがやきました。わたしたちが友達で

よかった。

「わたしも、わたしたちが友達でよかった」とマルガリータが言いました。「残りのトルティーヤを持って帰ったら？ わたしはおなかいっぱいだから。」

アドリアーナはずっとスキップして家に帰りました。アドリアーナも大満足でした。でも、トルティーヤを食べたからではありません。頭の先から足の先まで、友情でいっぱい満たされたからです。■

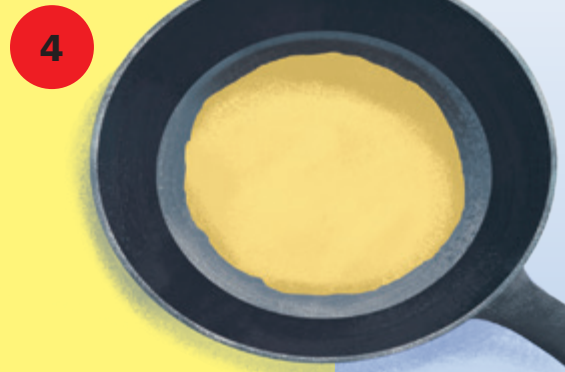
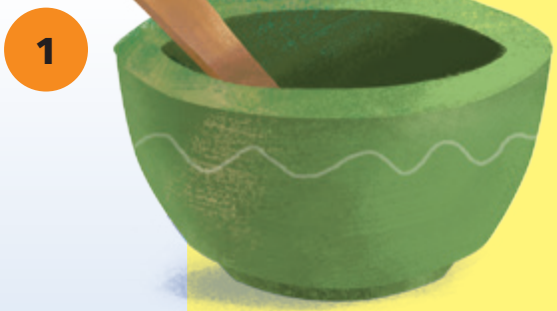
このお話を書いた人は、アメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。

友情のトルティーヤ

トウモロコシの粉で簡単に作れるトルティーヤです。友達と一緒に作って食べるのにぴったりです! 必ず、大人の人に手伝ってもらいましょう。

トウモロコシの粉 2 カップ
湯 1と1/2 カップ

1. トウモロコシの粉とお湯をまぜ合わせる。やわらかくなるまでよくこねる。
2. 小分けにして、小さな玉を作る。2まいのオープンシートに1つの玉をはさむ。
3. 平らなお皿などを使って、しっかりと玉をつぶして平らにする。
4. フライパンを中火にかけてトルティーヤを焼く。表面がこい色になったら、ひっくり返して焼く。
5. マメとチーズをはさんで、めし上がれ!



奇跡

優しく ♩ = 68

詞・曲：シャーナ・ベルト・エドワーズ



Piano introduction in 4/4 time, marked *mp*. The right hand features a melodic line with a triplet of eighth notes. The left hand provides a simple harmonic accompaniment.



Vocal entry at measure 4, marked *mp*. The piano accompaniment continues with a steady harmonic support.

1. みずのうえ あゆみ— あだ
2. しゅはいのち ささげ— だ



Vocal continuation from measure 7. The piano accompaniment features some chromatic movement in the bass line.

らししずめられたしゅ そのみてですべての やす
いかをしはられた よみがえら れたしゅは やす



Vocal conclusion starting at measure 11, marked *cresc.* and *mf*. The piano accompaniment also marks *cresc.* and *mf*.

まいをいやされたしゅ ひ— ときれのパンでみ なをみたし ない
べてをあがなわれた くいあらためるとき ゆるしうけて ない

© 2018 by Shawna Belt Edwards. All rights reserved.
教会あるいは家庭における一時的または非営利目的の使用に限り、
この表示を含めて複製することを許可する。

15 *f*
 くなつたひとを — い き か える ら せ う
 つ かな し ゆ の も と に — か え れ る ら よ う

17
 — イ エ ス は き せ き の か み — で き な い こ と

21
 な ン て — な い で も い ち ば ん の き せ き は — し ゆ が わ

24 1.
 た し を — す く っ て く だ さ る こ と

27 2. *mp* *molto rit.*
 と あ な た と — わ た し の こ と

27 *mp* *molto rit.* *p*



「イエス・キリストはわたしたちの良^よ羊飼^{ひつじか}いであり、わたしたちを愛^{あい}し、気^きにかけておられることをあかしします。主^{しゅ}はわたしたちをごぞんじで、ご自分^{じぶん}の羊^{ひつじ}のために命^{いのち}をぎせい^{しゅ}にされました。主^{しゅ}はわたしたちのために生きておられ、わたしたちが主^{しゅ}を知^しり、主^{しゅ}に對^{たい}する信^{しん}仰^{こう}を働^{はたら}かせることを望^{のぞ}んでおられます。わたしは主^{しゅ}を愛^{あい}し、あがめ、心^{こころ}から感謝^{かんしゃ}しています。」

じゅうに しんとていんかい
十二使徒定員会

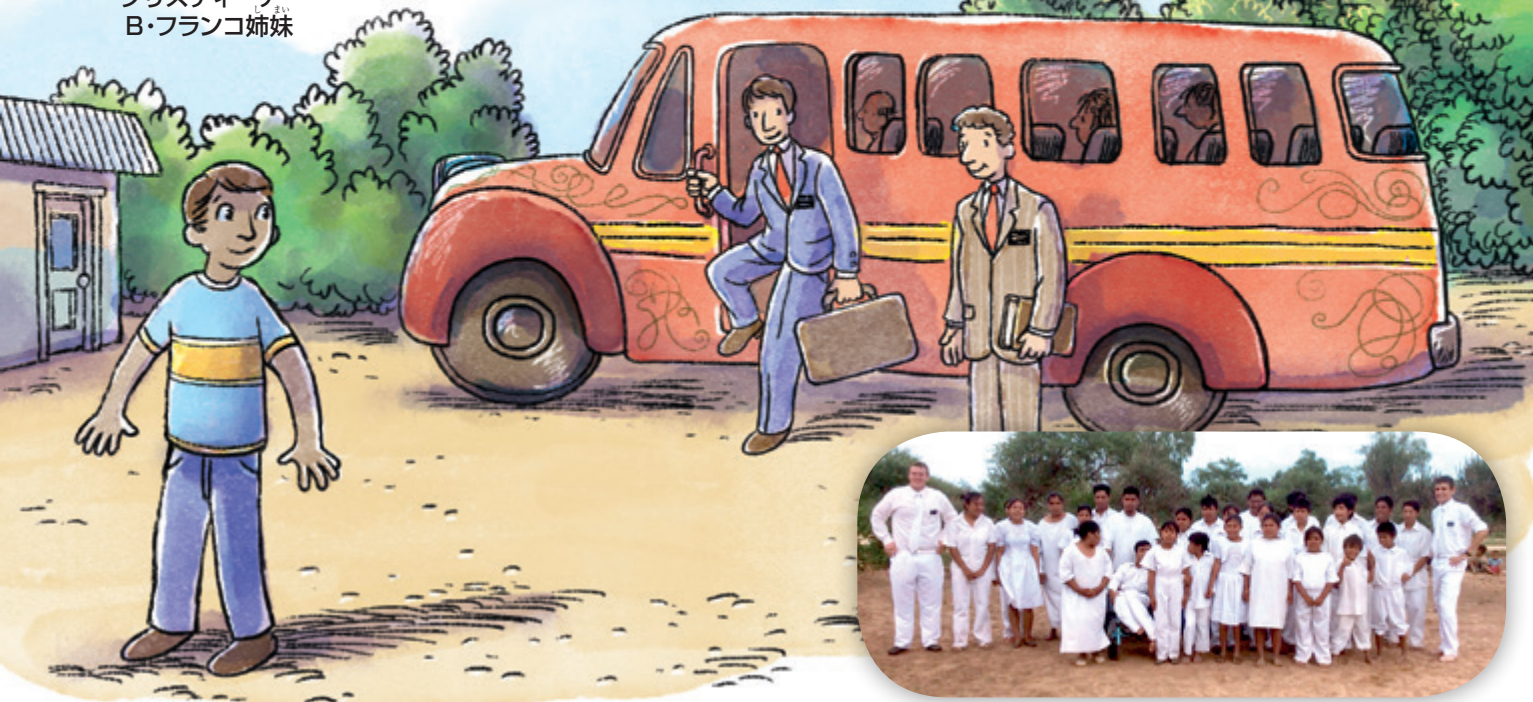
デーブル・G・レンランド長老

「わたしたちの良^よ羊飼^{ひつじか}い」『リアホナ』2017年^{ねん}5月^{がつ}号^{ごう}、32から



中央初等協会会長
第二顧問
クリスティーナ・
B・フランコ姉妹

てん おんちち 天の御父はあなたを ごぞんじです



アルゼンチンのある小さな町では、毎週日曜日、ある人々のグループが、木の下に集まって聖文を読み、福音について学んでいます。そのうちの数名は教会員ですが、多くの方がバプテスマを受けておらず、心から受けたいと望んでいます。

でも、ある問題がありました。ほかの町からとても遠い所に住んでいて、かれらの町は長い間、教会の指導者の訪問も受けていません。

約4時間はなれた町に宣教師がいると聞いた人々は、お金を出し合い、バスのチケットを買って、宣教師のいる町に一人を送りこむことにしました。かれが町に着くと、バス停で待ちました。宣教師を見つけるには一番良い場所だと思ったのです。

2, 3時間すると、二人の青年が見えました。宣教師でした。自分の町にいる人々について話すと、宣教師と伝道部会長が、会いに来てくれることになりました。

伝道部会長と宣教師が来てくれる日、多くの人が集まりました。ようやく、バプテスマを受けていない人々がバプテ

スマを受けられるのです。レッスンを聞いて、じゅんぴができました。

一番近い川でもとても遠かったので、井戸から水をくんで、移動式のプールに水をためました。水をためるのに3時間かかりました。全部で27人の女性と男性と子供たちが、その日バプテスマを受けました。みんな喜びに満たされました。

天のお父様は、この人々がバプテスマを受けたいと望んでいることをごぞんじだったので、宣教師を見つけられるように助けてくださったのです。天のお父様はあなたのこともごぞんじです。あなたがどこにいて、だれで、何が必要かもごぞんじです。神はあなたのいのりをお聞きになり、こたえてくださいます。あなたがどんなにひとりぼっちだと感じていても、そこにいてくださいます。あなたは決してひとりではありません。いつも主にたよることができます。■

クリスティーナ・フランコ

かみ 神にしたがうモーセ

キム・ウェブ・リード



ある日、エジプトの王女がかごに入ったヘブライ人の赤ちゃんを見つけました。
王女はモーセと名付けて、王子として育てました。

モーセが成長したとき、エジプト人が
ヘブライ人をどれいとしてせっている
様子を見て、いやだと思いました。
モーセがヘブライ人を守るために
立ち上がったとき、エジプトの王さまは
モーセを殺そうとしました。
モーセはにげなければなりませんでした。
そのとき、神はモーセにヘブライ人を
解放するためにもどるように
言われました。



モーセは王様おうさまのパロに、
ヘブライ人じんを
去さらせてくれるように
たのみました。
パロはことわりました。
神かみは、パロが考えかんがを
変かえるように、モーセが
その地ちをのろうのを
助たすけてくださいました。
アブやノミやカエルが
地ちをおおいました。
ついに、パロがどれいいを
去さらせるように言いいました。



かれらしゅっぱつが出発してから、
パロは考えかんがを変かえて、
軍ぐんに追おわせました。
モーセの民たみが紅海こうかいに来たとき、
神かみは海うみの中なかにかわいた道みちを作り、
民たみをわたらせて、にげられるように
してくださいました。



神はモーセに十戒をおあたえに
なりました。

モーセは人々が約束の地に行く間、
十戒を教えました。

ついに、人々は安全で自由な身
になりました!

わたしはモーセのように
なることができます。
いましめにしたがうことが
できます。
助けが必要な人々を
守るために努力するとき、
神様はわたしを
助けてくださいます。



出エジプト2-34章から

わたしは平和を作る人になることができます





十二使徒定員会
会長代理
M・ラッセル・
バラード会長

安息日の 聖所

礼拝堂を聖餐会のための信仰と献身の聖所と考えることができるようになれば、わたしたちは皆祝福されることでしょう。

聖餐会はすばらしく、栄えある時間です。礼拝堂に足を踏み入れ、聖餐を受ける備えをするときは、自分は聖所にいるのだと考える必要があります。そこは、神聖で特別な場所であって、わたしたちがキリストとその大なる栄光に満ちた使命について深く思いを巡らすことのできる場所だからです。わたしたちはこの世的な事柄を脇に置き、代わりに、永遠にかかわる事柄について考えます。携帯電話を脇に置き、生ける神の御子であるイエス・キリストについて深く考える必要があります。

わたしたちが救い主に対する愛に心を注ぐための時間は、毎週たった70分しかありません。礼拝堂を聖餐会のための信仰と献身の聖所と考えることができるようになれば、わたし



たちは皆祝福されることでしょう。

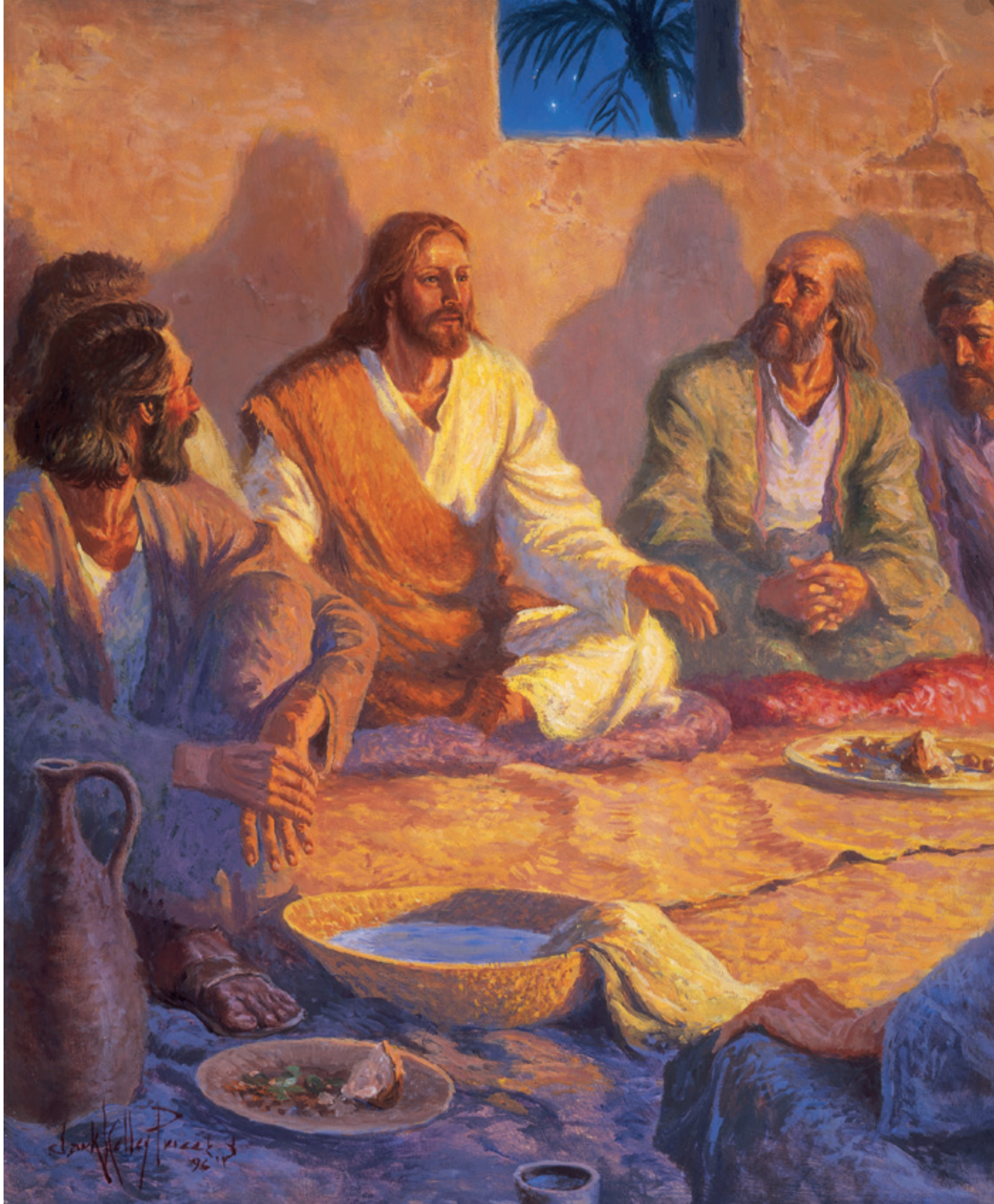
神の王国を建てるに当たり、よく準備された聖餐会を行う以上に大切なことがあるとは思えません。そこでは、話者がキリストについて語り、キリストについて証し、聖文やそのほかの資料にある使徒や預言者による証を分かち合います。

教会として、わたしたちはずっと安息日に焦点を当ててきました。これまでである程度の進歩はしてきましたが、まだまだ望ましい域にまでは到達して

いません。わたしたちは、すべての会員と宣教師が、安息日の礼拝の時間に霊的に動機づけられて、隣人、求道者、親族に対して「見に来てください。教会に来て一緒に礼拝しましょう」と言えるようになるまで努力を続けるつもりです。わたしたちはその域まで到達したいと願っています。

教会全体として皆でこのように行うことができれば、「見に来てください」というわたしたちの招待に応じてくれる人々は、回復されたイエス・キリストの教会のメッセージに力があることを感じるでしょう。彼らが聖餐会でわたしたちとともに礼拝するとき、彼らの心は動かされ、彼らの心と思いに福音の光が灯されるのです。■

“The Chapel: Our Sabbath Sactuary” から。
prophets.lds.org 参照



「最後の晩餐」
クラーク・ケリー・プライス画

「時間になったので、イエスは食卓につかれ、使徒たちも共に席についた。……

またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、『これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。』

食事ののち、杯も同じ様にして言われた、『この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。』（ルカ22：14、19－20）



ヤングアダルト

**物事の兼ね合いを
うまく取りながら堪え忍ぶ**

これら3つの原則に従うことは、
ただ堪え忍ぶだけでなく
「最後まで喜ぶ」助けになります。

44

18歳になったら
青少年のプログラムが終了し、
次は？

50

青少年
自分の賜物を
育むには

62

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

JAPANESE
4 02147 52300 6